

2211600

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習	1	通年	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

学生の受講動機は「必修科目である」が97.6%であった。この科目は、6名の教員のオムニバス形式で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びで必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル(80点以上)に達した学生は80名、再試験・再履修対象者は0名であった。到達度自己評価をみると、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.9、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」がともに3.8、その他の項目もほぼ3.5-3.7の範囲にある。学習量についても、授業の準備を6回以上行った学生が52名と半数以上を占めた。また、図書館やインターネットを利用した学生も過半数に達している。ゆえに、半数以上の学生について、大学における基本的な学習の技能が会得できていると評価できよう。					

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」が4.1であった。この数値は、上記で述べた通り、基礎演習という科目の性格上、当然であるといえよう。他方、授業の復習を全くしなかった学生が57名と半数を超え、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は7名にとどまった。授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「何をしたらよいかわからなかった」「必要性を感じなかった」などの意見がみられた。大学での学習の技能は、振り返り、繰り返しながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言えよう。学生の意見については「色々なことが出来て大変だったけどおもしろかった」「大学生にとってキャンパスライフを送るうえで必要な力を身につけることができ、よかったです」との意見が寄せられた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	2016年度は、様々な学習内容に触れる楽しさを損ねることなく、基礎技能について、さらなる向上を目指すことを目的とし、また特に「書く」技能について、重点的に取り組むこととする。そのため、4回1クールから7回1クールの演習を実施する。前期は「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置き、後期は前期の機能に加えて、「発表する」「討論する」技能の習得を目指す。
------------------------------	---

2211800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎実習	1	通年	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は1年生を対象とした福祉基礎科目(選択)であり、学生が対人援助の実習を通して体験的に学びを獲得するものである。学生の準備性は比較的高いことから(受講動機「関心のある内容である」53.8%)、今後の学生の実習・学習等に向けた動機づけに深くかかわる科目と認識し、授業運営を行った。具体的には、実習前の学内講義では対人援助職の理解や実習への動機・関心が高まるよう個別指導を行った。また、実習後には個別面接や報告会を行い、実習体験から得た学びや課題を深めさせた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
達成された			達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

授業評価アンケートにおける各DP項目から教育目標の達成状況を見ると、「意欲関心」(DP3)については「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う46.1%)となっており、目標を達成できたと考える。「態度」(DP4)は「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う42.3%、かなりそうだと思う42.3%)で、これについても達成できたと考える。「技能表現」(DP5)は、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」(わりにそうだと思う34.6%、かなりそうだと思う53.8%)であり、達成できたとと言える。また、実習報告会等でも同項目に関する学びが多数見られた。
上記に加え、本講義における図書・雑誌の利用(「利用した」42.3%)、インターネットの利用(「利用した」57.7%)の結果から、学生の主体的学習態度の高まりも見られる。以上のことから本科目における教育目標は達成されたと言える。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。
<授業評価の指標>
「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
意欲関心 (DP3)、態度 (DP4)、技能表現 (DP5) のすべてにおいて教育目標を達成しており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。
②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
既述の通り、本科目は福祉基礎科目として学生の動機づけを教育目標の1つとしている。学生の到達度自己評価や図書館利用、実習報告会・レポート等の学びからもCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、学生の到達度自己評価からは、本科目における教育目標は達成されたと言える。しかし、実習前後の講義と比較して、実習期間中の指導やフォローが不十分であったと思われる。こうした点から2016年度は実習期間中に帰校日(1日)を設け、実習中間の振り返りや個別指導を実施することとした。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の本科目(実習)への意欲や関心は総じて高いものの、その程度には差があると考えられる。また、履修動機やこれまでの福祉・実習経験の有無等も学生個々で異なることから、引き続き個別状況を把握しながら授業を展開していきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉概説	1	通年	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次を対象とした福祉基礎科目（必修）である。また社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の指定科目でもあり、多くの学生が資格取得に必要な科目として認識している。一方で、本科目の内容は初学者である1年生にとってはやや難易度が高いと思われる。したがって、授業は教科書と中心として展開し、單元ごとにレジュメを作成した。また図表・イラスト等も積極的に用いて学生の内容理解を助けるよう配慮した。その他、新聞記事やDVD等を活用し、学生が今日の福祉問題・課題を身近に感じ、関心を高められるよう工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な試験結果の平均は80.3点であった。再試対象者は3名いたもののほぼ全員が教育目標を達成したと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う38.6%、わりにそうだと思う45.5%、かなりそうだと思う12.5%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそうだと思う27.3%、わりにそうだと思う40.1%、かなりそうだと思う31.8%）などが示されている。 一方で授業評価アンケートからは、本講義を通して学生の自発的学習を十分に促すことができなかった事実も明らかとなっており（「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」について「していない」が75.0%）、この点は今後の課題と言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 試験結果（平均80.3点）や学生の到達度自己評価結果から本科目の教育目標は達成されていると判断でき、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 上記で述べたように、本科目は初学者である1年生にとってやや難易度が高いと思われる。その理由の1つとして本科目におけるキー概念が「福祉政策論」（マクロレベルの福祉）となっている点が挙げられる。学生（特に1年生）にとっては対個人への福祉・支援（ミクロレベルの福祉）の方が具体的にイメージしやすく、内容等の理解も容易であると思われる。したがって、CP・カリキュラムマップ上の位置づけという点では配当年次の検討が必要であると思われる。 ※2018年度カリキュラムより配当年次（3年次開講）及び科目名称の変更を行う予定である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記で述べたように、学生の授業評価アンケートからは自発的学習を十分に促すことができなかったという結果が示された。また、本科目に関わる図書館の利用も低調であった(この授業では図書館の図書、雑誌を利用した)について「利用しなかった」96.6%)。こうした結果を踏まえて、授業で提供する福祉の時事的内容や情報について再検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	1年生にとってやや難易度が高いと思われる本科目であったが、教育目標は達成できたと考える。これにはレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用、コメントカードによる理解度の把握等が有効であったと考える。引き続きこうした取り組みを行いたい。 一方で、学生の自発的学習の促進という点では課題が残った。授業を通して抱いた福祉への興味・関心について、学生自らが主体的に深めていく学習態度をどう培っていくか今後も考えていきたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会学概論	1	後期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は国家試験の受験科目であるため受講率が高い。しかし、1年生対象ということから国試を見据えた高いモチベーションは期待できない。その一方で、高校までに経験のない科目であり、専門用語の抽象度が高いという意味で学修の準備は十分とはいえない。 授業の手引きなしに事前準備することが難しい内容であるが、できるだけ身近な事例や経験を題材にすることで、日常の中に社会学の視点を持ち込むことができるように努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体平均は86.1と非常によい結果であった。 まとめプリントで定期試験の形式を示し、授業内容の復習を自己学習の形で定着させるよう指示したが、多くの学生がきちんと課題をこなしていた。また、質問に来る学生も、ある程度自分で学習した様子が見られた。 本試験の問題はまとめプリントの丸暗記では対応できず、テキストやレジュメ以外の授業中の説明まである程度理解できていたようだ。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	国家試験の受験科目という出口段階で要求される能力に向け、1年次でどのような学習が必要かという観点からして適切に位置づけられている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	平均点が高いことからもう少し発展的な内容まで学習することも考えられるが、社会理論と社会システムという科目に対する苦手意識を持たせず、学年が進んだ後に授業以外の学習を進める基盤を作るという意味では現状程度の達成度が適切だと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	点数としては高いが、領域的に不得意なところがいくつか存在する。また、時間的にじっくり取り組むことが難しい部分もあるため、それらが後に苦手領域となる恐れがある。そのような事態を防ぐために、該当部分をわかりやすく解説する教材の工夫と今後の学習につなげるための自己学習のガイダンスを組み込みたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の基盤と専門職	1	通年	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士の国家試験受験に関する科目である。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。第一回目の講義時に受講に關しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に關する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につなげがるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに關しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、1名以外(試験日程間違い)合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけでなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものを感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が3.3と低かった。必修科目であり、多くの人数が受講する座学であるがゆえ、なかなか困難かと思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討していき、次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされていない現状であり、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、指導を行いたい。毎時間、予習復習の具体的情報提供を行うことも続けていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	社会福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。次年度は学術データベースの利用方法等に関して具体的な指示を出すことにしたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	通年	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」が91.7%、「資格取得に必要である」36.5%、「関心のある内容である」2.1%、「単位数を確保する」2.1%であった。本科目は、専門教育科目の福祉専門科目のひとつであり、社会福祉士等の実習とも関連する科目である。講義では、学生の関心が高まるように、テキストだけでなく事例や時事問題を活用した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再履修者はいなかったことから、全ての学生が標準レベルに達したと考えられる。また、項目別にみると、受講動機において「関心のある内容である」は2.1%であったが、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の中央値は4.0点であり、平均点も3.6点であったことから、「意欲関心(DP3)」は、達成されたと考えられる。今後も、学生の学ぶ意欲が高まるような事例などの活用について検討していきたい。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおいて福祉専門科目のひとつであり、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格の必須科目であると同時に、卒業に関わる必須科目である。再履修者もなく、多くの学生が標準レベルに達していることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)、技能表現 (DP5) は、「やや達成された」にとどまったが、多くの学生が標準レベルに達していたことからDPにおける内容の妥当性に問題はないと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.3点と他の項目に比べ低かった。事例などを提示し、とやかに座っている友達と意見を出し合う機会も設けいていたが、十分な時間がとれていなかったと考えられる。今後、事例などを用いるときには、考える時間を確保し、学生が主体的に授業に参加できるように工夫する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	おおむねすべての学生が標準レベルに達したと考えられる。次年度の講義では、事例などを用いるときには、考える時間を確保し、学生が主体的に授業に参加できるように工夫することが課題である。また、予復習の時間を確保している学生が少なく、図書館の利用もしていない学生が多かった。今後は、予復習として取り組むべき課題を具体的に提示していくことが課題である。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」が95.2%を占め、「関心のある内容である」は6%にとどまっている。この科目は1年次「相談援助の基盤と専門職」、2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時に「相談援助の理論と方法Ⅱ」では難度が高くなり、これまでにこの科目に関心があった学生すら学習意欲が低下したり、理解が困難になる可能性がある科目であるため、ソーシャルワークを学ぶ上で、なぜこのような内容の理解が必要であるのかということ、今学んでいることがソーシャルワーク実践にどのように位置づけられるかということを伝えることに努めた。 また、そのための手法として、実践事例を用いた解説や視聴覚教材の活用を積極的に取り入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点80.6点から、後期試験は平均点85.4点まで上昇した。前期末の時点で再試験対象圏内にいた学生は8名だったが、後期試験では8名それぞれが大きく取り戻すことができた。8名のみでなく、多くの学生が後期の授業では前期以上に意欲的に取り組むことができた。その様子は毎回の授業で提出を課していたリアクションペーパーの内容からも見る事ができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPの観点において修正が必要である。「知識理解」を達成目標の一つとして位置づける。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が他の質問項目と比べて低かった。講義科目であり、毎回の授業でたくさんのことばを並べての一方的な説明になりがちであったため、事例などをとりあげる際にも学生にじっくりと考える時間をとるような工夫を考えていきたい。また、授業の予習・復習がほとんど行われていないことも反省点である。事例を用いた学習で、単なる解説のみで終わらず、学生自身が事前に目を通し、考察し、それを踏まえて授業に参加するよう、課題提示とそれを有効に活用した授業運営を工夫していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	これまでの専門科目での学びを結びつけ、多角的な視点から思考し判断していけるような力を養っていけるよう、その基礎となる知識の習得を重視して今後の授業改善を行っていきたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域福祉論	2	通年	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目ではあるものの、「資格取得に必要である」から選択した学生が40.0%。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	いずれの項目についての評価は僅かに平均値が3.0を超えてはいるものの、到達度自己評価で「少しそうではないと思う」の評価が10.0%前後いることを考えると指導上に反省すべき点があり、今後は学生の理解が深まるよう指導して行きたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、DPともに妥当性があると思われる。
--	----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が2.8と低かった。講義科目であるため、話し合いを行いながら授業を進めることは難しく、社会事象を話して考えさせ、自分の考えをまとめさせようとした。「説明は理解しやすいものであった」が3.3ではあったものの、「学生が参加する機会」となるよう学生が理解し自分の意見を出させる工夫を今後において検討する。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった」が3.2の平均点であった。何を学ぶのかについての予習、何を学んだかを振り返るための復習のポイントを明示して行くようにする。
-------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障論	2	通年	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「必修科目である」87.7%、「資格取得に必要である」39.5%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験は前期・後期の2回実施した。前期試験の平均点は61.48点(福祉心理養護教諭コース63.41点、子ども家庭福祉コース57.36点)、後期試験の平均点は59.43点(福祉心理養護教諭コース61.68点、子ども家庭福祉コース54.04点)であった。成績評価の一部に相対評価を加えたため、再試対象者は30名、理想的レベル(80点以上)に達した者は8名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が3.6、ほかは3.2-3.4の範囲内にほぼ収まっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低い、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考え。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.4、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.3であった。また、授業以外の学習をしていない学生が9割前後に上っているが、授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかった」、「授業の内容だけで大変だった」、「授業内容に満足したから」、「何をしたらいいかわからなかった」などの意見が見られた。社会保障制度は非常に複雑であり、授業以外で学生が学習する量を、教員に過重な負担を掛けない程度でいかに増やすかが課題となろう。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が2.8とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。学生の意見について、「レジュメがすごく見やすかったです」、「授業は分かりやすくとても良かったです」のほか、「テストが難しい」という意見があった。内容のレベルについては、国家試験の出題内容を念頭に置いているため、「難しい」という意見に迎合するつもりは全くない。授業の質評価および学生の意見から、学生の意欲の高さと講義への評価の高さには相関関係があると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習を増やすことについての課題が若干あるものの、その他の改善すべき点は特にないと考えている。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次を対象とした福祉専門科目（必修）である。また社会福祉士指定科目の1つでもある。したがって、授業は教科書を中心として展開し、單元ごとにレジュメを作成するなど学生の内容理解を助けた。また、法制度改正など国家試験で出題が予想される部分については特に入念に解説を行うとともに、コメントカードを通じて学生の理解度の把握に努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な試験結果の平均は72.5点であった。再試験対象者は16名おり、本科目の教育目標はやや達成されたと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う58.7%、わりにそうだと思う31.5%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそう思う35.9%、わりにそう思う48.9%）などが示された。 一方で授業評価アンケートからは、授業を通して学生の学習意欲を高めることはできたが、それが学習態度・行動に結び付いていない現状が明らかとなった。例えば、到達度自己評価「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」について「まあまあそうだと思う」48.9%、「わりにそうだと思う」39.1%、「かなりそうだと思う」8.7%が見られる一方で、授業の課題以外に学習に取り組んだ割合は5.6%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 試験結果（平均72.5点）や学生の達成度自己評価結果からも教育目標は概ね達成しており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目でもある。3年次の相談援助実習の領域の1つに高齢者福祉領域があることから、本科目の配当年次に問題はないと考える。また教育目標も概ね達成しており、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	既述したように、本科目の教育目標は概ね達成したと判断できる一方で、授業評価アンケートからは学生の自発的学習を十分に引き出すことができなかったことが示された。また予習・復習についても十分に組み合せていない現状が明らかとなった(予習を全くしなかった54.3%、復習を全くしなかった44.6%)。今後は毎回の授業ごとに予習・復習のポイントを的確に提示し、学生の学習量を担保していく必要があると考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の教育目標は概ね達成したと判断できる。しかし、再試験対象者が16名存在しており(このうち再試験不合格者は4名)、個々の学生で理解度に差があることが推察される。この点、毎回提出させるコメントカードの内容等の再検討や小テストの定期的実施も必要と思われる。さらに今後は、社会福祉士国家試験の本試験や模擬試験等の成績からも、授業を評価し、改善を行ってきたい。
------------------------------	---

2213000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科				
氏名	山根 正夫				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害者福祉論	2	後期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	身近で障害のある人と関わった経験が、全くない学生に障害といってもなかなか想像力が働くものではないので、支援の制度を解説する前に様々な障害について具体的に解説した。必修科目であり、国家試験の対象科目であるため制度的側面の解説も必要であり、方法としては前年度を踏襲した。教授内容が膨大で多岐にわたるため、基本的な内容についての解説に留まった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の結果から、十分に学習していると評価できる学生とそうでない学生がおり、概ね多くの学生が標準的な学習が成立したといえる。大半の学生に対しての要求水準としてはやや低めに設定していた。授業アンケートでは概ね中心化傾向がみられるが、講義形式であり、授業中に意見をまとめるや話し合うということは意図していないのでこの点について全くそうでないという感想は当たらないと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	国家試験の対象科目であり他の教科とも関連する部分からも内容的には妥当であったと考えられる
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

レジメの提示については、毎年1～2名の学生から睡魔対策と同時に高校の授業のように穴埋め式にしてほしいなどの要望があるが、授業の中でどの点が重要であるかを認知する力も必要であることを伝えた。学生自らのメタ認知機能の向上も期待したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生全般を通してみると教科内容の基本的な部分については概ね学習できたと考えられる。

学科	福祉学科
氏名	長田 雅行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
就労支援サービス論	3	後期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	障害のある方を軸とした就労支援の理解を主の目的とした科目である。 受講者自身の将来の就職に際しても、共通の部分が多くの科目として、障害者等の就労問題だけではなく、自分たちにとっても身近な問題として理解ができるように、世の中で起こっていることと、授業で取り扱う内容を結びつけながら、授業を進めてきた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価:履修者数 67名中 秀 11人、優 18人、良 24人、可 13人、不可(辞退者) 1名となっている。 得点:レポート60点満点中 最高50点。平均41.9点。 小テストの結果については、30点満点中 最高28点。平均21.0。 出席:15回の講義中、1回あたりの事業に対する平均出席者は61.7人であった。 到達度評価においては、10項目中9項目で中央値を上回る評価が得られている。 学習量の評価については、情報の利用等を行い、準備を行った者の割合は、17.6%と低い数値であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	就労問題を取り扱う科目であり、自身の就労に対するイメージや、制度等については、受講者自身が未知数な領域であるために、オリエンテーションで本科目に対する全体のイメージ作りを行った。 受講動機については、①資格取得に向け必要、②単位数の確保、③関心のある内容の順であった。 国家試験対策については、就労支援サービスにおける過去問に対する解釈等を実施し、ニーズを満たすことは出来たと考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎事業ごと、復習に必要な個所や、内容についてアナウンスを行ってきた。 受講者においてより身近な問題としてとらえることができるように、パワーポイントを使用したり、理解のしやすさを考慮し、系統だてて進め方にも留意を行ってきた。 また、配布資料を準備したりしながら工夫を図ってきた。資料については、厚生労働省や、各関係各所の動きを伝えられるような資料の準備を心がけてきた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	レポート、小テスト等の結果から、63%～67%の得点率となっている。 個人の学習に対する取り組み方によっても大きく影響はするが、復習を軸とした学習が効果的な科目と考えている。 復習にあたって、具体的な整理のポイントをより詳細に伝えていくなど、自己学習の促進に向けても取り組みたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
権利擁護論	3	後期	選択	いいえ	63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」84.0%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	後期試験の平均点は63.89点であった。成績評価の一部に相対評価を加えたため、再試対象者は12名、理想的レベル(80点以上)に達した者は10名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.5、ほかは3.1-3.3の範囲内にほぼ収まっている。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低いのが、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考えられる。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考えられる。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考えられる。よって、内容的妥当性には問題ないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに3.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.4であった。また、授業以外の学習をしていない学生が約6割に上っているが、授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかったから」、「他の課題があるため」との意見が見られた。他方、「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」として、「関連書を読んだ」、「インターネットで調べた」という記述も見られた。成年後見制度を中心とする権利擁護に関する制度およびこれらの前提となる民法等の法律は非常に複雑であり、授業以外で学生が学習する量を、教員に過重な負担を掛けない程度でいかに増やすかが課題となろう。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が2.8とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学生の意見について、「時間配分が悪い」、「生徒をキョロキョロ見るのはよくないです」という意見があったが、時間配分については、講義時間を超過したことは一度もないことから、具体的な指摘がないと対応のしようがない。また、学生の講義を受ける態度を適宜確認するために、講義室にまんべんなく目を配ることは当然のことであり、上記指摘はいずれも「筋違い」であると考ええる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習を増やすことについての課題が若干あるものの、その他の改善すべき点は特にないと考えている。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	細井 勇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉の歴史と思想	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度は、シラバスで提示しなかった、マーシャル、ボランニー、アンデルセンの脱商品化を取り上げた。社会福祉とは何か、それはどう説明されるべきかをより根源的に説明し、考えてもらいことにした。しかし、同じような説明を繰り返しても、学生の理解にはあまりつながらなかったと感じている。今の時代の空気の中で学生は感じ、思考する。私の言葉や概念、その背景にある世界観のようなものを半年で理解してもらう困難さを痛感した。授業は準備してもらいというより、授業の中で学生がどう感じ考えているか意見を出してもらうようにした。本年度はシラバスに忠実に、つまり具体的な人物を取り上げ、その実践と思想、その歴史的背景を講義していきたい。事前に資料を配布し、事前の準備をうながすようにしたい。また、プレゼンテーションのための準備(テーマの選択、中間的な進捗状況の確認等)を支援することで、事前学習の内容を深めることができると考え、工夫していきたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成されなかった	達成されなかった		達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年は、授業では、そのつど、学生に意見感想を書いてもらい、その内容を授業で確認していくことをした。しかし、如何に学生にとって理解が困難かがよく分かった。講義の内容を理解してもらうためにはかなり時間を要すること、学生自身が古典的な文献を読みこなすような主体的な参加がないとなかなか理解につながらないことを実感した。社会福祉を自由や正義との関係で理解いただくことは達成されなかったと思う。また、学生がすぐで文献を読む意欲が引き出されたとも思えない。本年度は、より具体的な人物とその具体的な実践から入っていくことにしたい。学生にはプレゼンテーションに向け、図書館の利用をうながし、より参加型の授業展開を考えていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は指定科目ではないので、問題意識の高い学生が選択する科目であると思う。ソーシャルワークの技術的な修得が課題ではなく、社会福祉についての知的な理解、総合的な理解と問題意識を高めていくことを目指したい。シラバスで提示した達成度の評価項目は妥当と考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度は、シラバスからそれたこと、講義の抽象度が高すぎたと反省している。既に来てきたように、シラバスを重視、資料の事前配布と事前学習内容の提示、最終的な各自のプレゼンテーションに向けた準備教育を充実させていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	既に来てきたように、昨年度は講義担当者自身の最近の問題意識が前面に出したところがある。しかし、学生の理解には至らなかったと言う結論である。試験結果から、一定の理解に到達している学生がいたが、全体としては不十分なものであった。責任はすべて私にある。今年度は方針を変え臨みたい。具体的な人物を取り上げるについては、これまでイギリス、ドイツに訪問してきた経験や写真、ビデオ等を活用できると考えている。プレゼンテーションの仕方、たのしさを実感してもらうようにしたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	西崎 緑

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際社会福祉論	4	後期	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①国際的観点から社会福祉の役割を考えるとともにソーシャルワーカーの倫理綱領の国際的スタンダードの理解を高めることに重点を置いた。 ②集中講義であるため、こちらからの情報提供が中心であったが、事前のシラバスを確認して受講していたため、学生たちは興味を持って受講した。 ③集中講義の途中で数回にわたり、何を学んだか、ということと感想を自由に書いてもらったので、学生たちの理解度を確認しながら進めることができた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①学生の自己評価から、自分が学ぼうとしている分野(社会福祉)について、知識、判断力、学びを深める意欲、さらに職業選択についての評価が高かったことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、4年次の選択科目であるため、受講者は少ないが、国内だけではなく、世界に目を向ける学生も少なからずおり、その学習ニーズには応えることができた。(受講生の満足度から判断した。)
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生は楽しんで受講したようだが、学習量や図書館利用の点で課題が残る。集中講義であるため、課外学習の時間が限られるが、できるかぎり課外学習の充実につとめたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業の目的は達成できており、4年生という就職を目前にした時期に本科目を受講して、就職に臨む上での視野が広がったようである。しかし、課外学習の指示に課題が残るので、次回は、課外学習のテーマを指示しておきたいと考える。

学科	福祉学科
氏名	櫻木 美穂子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅰ	4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者が4年次の学生であること。将来介護や保育にかかわりのある職業に就く可能性の高い学生であることを鑑み、より実践に役に立つ知識を得ていただくことを目的に、実習や当事者と関わる機会を多くするように授業を組み立てている。またグループワークや意見発表の機会を作り考える力を伸ばすようにした。 ②課題を一人一人がしっかり取り組めるようにグループ発表をなくし少し負担は大きくなるが個人での発表とした。 ③各授業ごとにミニレポートを提出することにより授業の内容の振り返りを図るとともにそれぞれの学生の理解度を確認し次の授業の参考とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は4人と少なかったが皆高い意識を持ち、授業に参加していた。そのためこちらの意図した目標に近い理解度が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉特講Ⅰという選択科目であり、学生の意識と関心により受講される科目である。それゆえに意欲の高い学生が多く受講されている。それに応えるべく、また社会に出てからより役に立つ知識を中心に授業内容を組み立てているところである。しかし
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義の中で質問の時間が短くコミュニケーションをとる機会が少なかったと思われるので、もっと交流の時間を作るように授業を組み立てる。
短い期間で課題を作成し発表しなければならないので、学生の負担を減らす工夫をしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

15年度は視覚障害関連の講義が多かったが、次年度は福祉用具に関連した講義を増やしバリエーションを広げるよていである。

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅱ	4	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の総まとめ、国家試験準備の意味もあり、受講学生の準備性はそれなりに高い。各専門分野の教員によるオムニバス形式の講義であり、学生のベースライン測定は困難である。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	国家試験の合格率が向上したこと、自己採点の点数も向上していたことから、やや達成されたと判断した。ただし国家試験については本科目の効果だけではなく、自己学習や勉強会の成果でもあるため断定的には言えない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年間の総まとめとして、過去の学習内容の確認と理解の深化には繋がっているのではないかと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各専門分野のコマ数が1～2コマであり、制度や法律の最新の情報に限定され、総論的な枠組みでの理解は学生の自己学習に依存している側面があり、自己学習の方法性の導きに工夫が必要かもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

4年間の学習の総まとめ的な側面と学科における国家試験対策とどのようにリンクさせていくのが課題として残る。

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、必修科目にも関わらず「必修科目である」が15/16人おり、「資格取得に必要」が7/16人となっている。②主体的参加を求める演習科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、演習の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。③授業の実施については、できる限り毎コマにグループワークを設定して、話し合いや具体的場面を設定してのロールプレイなどを導入した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績評価については、平均89.8点と高めだった。最低点85点、最高点93点である。授業への参加状況は欠席もほとんどなく積極的な参加ができていた。提出物も、全員が満たしている。発表の評価も概ね全員が標準に達していて、2名が理想的レベルに達していた。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	相談援助演習の入口としての位置づけである。対人援助にかかわる援助技術の理解と必要性について、社会福祉士の活動の場や職域の理解、面接技術の理解についての内容を含んでいる。内容的妥当性があると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の中で、自分の意見をまとめる話し合う、発表するなどの機会、学生の質問を受け付け答える機会の項目が4. 5、4. 4と高い評価だった。こちらの教育目標が学生へも伝わり、機会を設けて主体的参加を促すことができていたということだと評価している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

図書館の利用、課題以外の学習への取り組みを行った学生がほとんどいなかった。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思います。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生の後期に入り、大学生生活にも慣れてきたが、「相談演習とは何か？」という、理解がまだよくできていないことが課題である。受講動機を見ると「必修科目である」が100%で、「関心のある内容である」は6.7%であった。 ②相談援助とは何か？について、4～5人のグループで、事例に基づき問題の解決に向けて取り組むよう指導した。 ③社会福祉士としてのレディネスを形成できるよう教材を作成した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
	最終的な成績の平均値は78点であり、再試対象は0人であった。全員が標準的レベルに達していたが、理想的レベルに達した者は5名と、まだまだ限られていた。学生の授業評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる。話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた。」が60%(9/15)で、比較的学生の参加意識は高かった。それから、学生が主体的にに参加していける授業にしていきたいと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

[illegible]

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの意見では、「とても楽しかった。」という意見が2件寄せられている。これからも学生が「学びたい」と思い、楽しく参加できる授業にしていきたいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	相談援助の実際がどのようなものであるかというイメージが、実体験のない学生には理解しづらいところがあるので、できるだけ具体的に、授業を進めていく必要がある。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてをロールプレイ、グループワーク、グループ討論などを交え、体験的に学ばせた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	グループで社会福祉の関心のある領域をインターネットなどで調べさせ学習の準備を行った。概ね教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	基本は、「受講動機に必修科目」であると考えているが、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題」が理解できたとともに「職業選択の参考になった」と回答した意見が多かったことは演習を通じて習熟できたと判断する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1年生であり、学生一人ひとりの関心分野は異なっていた。しかし、自分が知らなかった分野のことであり、興味を持てる評価結果は「授業の質の評価」からもわかる。各自が書籍やインターネットなどを活用し調べて発表や発言していたことからわかる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

座学による演習だけでなく、今後は、基礎実習やボランティアなど体験的な実践場面の経験を通じて、より演習の質的な効果が望まれるのではないかと考える。そのような場の情報も発信できればと考える。

2214303

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

相談援助(ソーシャルワーク)の専門家として基礎的に必要とされるスキルについて、1年生が教員別グループに分かれ、参加型、体験型の演習プログラムを中心として行う講義である。毎回小テーマを設定して、そのテーマを習得できるように演習を通じて学ばせる。1年生として、相談援助の基本としての、対人接触サービス業を目指すものとしての、必要なものを習得できるよう工夫した。特に自分を表現し、人との関係性を作ることを目的として、とりわけロールプレイ的な要素を導入して、個人や集団になってかわかりを持たせるように工夫した。初回講義の時には、この講義で何をするかということを、15時間分毎にまとめ、ペーパーにして配布し説明した。ヒューマンサービス基礎演習と同様に、心構えと題してのペーパー(内容は休まない、協力する党の再確認)を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を設け、文章にて表現させた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
達成された	達成された		達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、専門基礎科目でもあり、1年生の福祉、とりわけ対人接触サービスを行う専門職としての相談援助職を目指すものとしての導入的講義として、関係性の重要性を理解すること、そのことを体験として学習していくことを考えていけば、学生からの評価や、最終報告から見ても、内容としては十分に妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても、コミュニケーションスキルの重要性、協力するためのスキルの獲得もできていると感じることから、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価について、「テスト、レポートの評価基準が明らかであった」の項目で3.8と、唯一中央地より低い点数であった。初回講義時にインフォメーションしているのですが、幾度が評価についての確認を講義途中に入れていくことをしていきたいと思う。また、「授業の課題以外に学習していない理由」で、「何をすればよいかわからなかった」という回答が複数あった。具体的に社会の中での状況を話して行き、リアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けをしていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	繰り返しになるが、大学に入って1年目に開講する、ヒューマンサービス基礎演習と同様に、相談援助職を目指していくものとしての理解と能力を高めるための、非常に重要な講義だと思う。本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパーや、最終講義のときに個別報告によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。講義内容もシラバス通りに進化した。次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代と共に求められる相談援助の力量も変遷をしていくと考えられるので、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	山本 佳代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門職である社会福祉士についてより理解を深められるよう、①社会や地域で起きている福祉的課題・問題の実情や背景、それらを抱えた人々(当事者)、②社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、③社会福祉士としての価値・倫理、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術について、ロールプレイやグループワーク及びグループ討議などを交え体験的に学べるよう工夫した。具体的には、グループ討議で、新聞記事から話題(ホームレス支援の現状など)を選び、より身近な出来事として捉えられるような工夫や、ボランティアの場を設け、実際の関わりから学びを深められるよう工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価(1)「自分なりの目標を達成した」、3.9以外は、全て4以上だった。全ての学生が標準レベル以上に達したと考えられる。また、図書館やインターネットの利用についても数名の学生が利用しており、自主的な学びにつながったと考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、社会福祉の基礎を学び、意欲関心を持って次の学年へとつなげていくことを目指したい科目である。受講動機は①「必修科目である」が100%であるが、到達度自己評価(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.4であり、内容的妥当性について問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

到達度自己評価(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値が4.4と高く、グループワークやプレゼンテーションを繰り返し経験したことが、一人ひとりの力を促進させたと考える。一方、図書館やインターネットを利用しなかった学生もいるため、意欲的に予習復習に取り組めるよう工夫していくことが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績と到達度自己評価の結果から、概ね目標は達成できたと考えられる。今後もグループワークを積極的に取り入れ他者と意見を交換し、協力しながら課題に取り組めるよう工夫していきたい。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目(2年次対象・選択)の1つであり、相談援助演習Ⅳ(3年次前期)及び相談援助演習Ⅴ(3年次後期)と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は各担当教員の専門領域(障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉)における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「必修科目である」(65.9%)、「資格取得に必要である」(58.5%)が見られ、社会福祉士取得を強く意識した受講がうかがえる。一方で「関心のある内容である」(4.9%)となっていることから、今後は授業内容や展開等を工夫し、学生の関心・意欲等を高める必要があると考える。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均81.3点であり、この点では教育目標を達成したと言える。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う60.1%、かなりそうだと思う10.1%)であり、達成したと言える。思考判断(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う47.6%、かなりそうだと思う7.3%)であり、やや達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う47.6%、かなりそうだと思う9.8%)であり、やや達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う51.2%、かなりそうだと思う6.1%)であり、やや達成できた。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う51.2%、かなりそうだと思う7.3%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う11.0%)となり、やや達成できたと考える。 以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況からは、今後、学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の成績(平均81.3点)や授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からも、教育目標はある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは3年次開講の相談援助実習の展開において不可欠であり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記で述べたように、学生の自発的学習や図書館利用の状況から、学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。具体的には授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは「していない」(89.0%)が見られた。また「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては「利用しなかった」(78.0%)が見られた。今後は、学生の関心・興味を引き出す授業展開について、各教員の教授内容や方法の現状を見直し・改善する必要があると考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。本科目は教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。
------------------------------	--

2214700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は社会福祉士指定科目(3年次対象・選択)の1つであり、相談援助演習Ⅲ(2年後期)及び相談援助演習Ⅳ(3年前期)と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は各担当教員の専門領域(障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉)における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。
授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「必修科目である」(61.7%)、「資格取得に必要である」(73.3%)が見られ、相談援助演習Ⅲと同様に、社会福祉士取得を強く意識した受講がうかがえる。一方で「関心のある内容である」(6.7%)となっており、学生の関心・意欲等を高める教授内容や展開を再検討する必要性があると考える。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

全体の成績は平均77.4点であり、この点では教育目標をやや達成したと言える。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う55.0%、かなりそうだと思う11.7%)であり、やや達成したと言える。「思考判断」(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う46.7%、かなりそうだと思う3.3%)であり、やや達成できなかったと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う46.7%、かなりそうだと思う6.7%)であり、やや達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う51.7%、かなりそうだと思う1.7%)であり、やや達成できたと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う41.2%、かなりそうだと思う6.7%)、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」(50.0%)、かなりそうだと思う」(6.7%)と、両DP項目にやや数値の差が見られるもののある程度教育目標は達成できたと言える。
以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況から、今後は学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
全体の成績は平均77.4点であった。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、「思考判断」(DP2)において教育目標の達成がやや難しかったものの、その他のDPではある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。
②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらは当該学年で履修する相談援助実習の展開において不可欠となるものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」(85.0%)が見られた。また、「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては、「利用しなかった」(63.3%)が見られ、本科目において学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。これについて相談援助演習Ⅲと比較すると状況の改善がやや見られるものの、引き続き学生の関心・興味を引き出す授業展開を検討する必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目における教育目標はある程度達成されたと考える。本科目は教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	資格取得のために必要な科目であるが、資格取得に対するモチベーションがどの程度あるかは各学生様々である。特に「他の資格・免許をとれなかった時のために」などの理由により履修する学生もある一定数いることから、履修オリエンテーションの段階から実習に向けての心構えについて厳しく指導した。また、実習現場や実習活動について現実的かつ具体的に理解できるよう努め、最終的に3年次の実習に行くかどうかを学生自身で決断するように促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は平均4.2と高得点であったが、「的確に判断する力を得ることができた」や「必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均3.7点と低かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は現場実習に向けて、実習に必要な知識・技術・心構えを準備していく科目であることから、「知識理解」「思考判断」「技能表現」において学習到達度の自己評価が十分に到達したとは言えない結果であったことが反省すべき点である。到達すべき姿として学生がイメージしやすい目標の提示とそのための課題を見直すなどして、内容を検討したい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

課題と評価基準が学生にわかりにくいものであったことが反省すべき点である。図書館利用は約半数の学生が利用しているが、これも十分ではなく、予習復習も十分に行われたとは言えない結果であった。課題に取り組むことと到達すべき姿との関連を学生が理解できるよう明示し、実習に向けてのモチベーションが高くなるよう改善したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

実習や資格取得へのモチベーションを高めていくのに重要な科目である。他の福祉専門科目への学生の取り組みにも大きく影響する科目であることから、実習に求められる準備と課題との関連を明示すること、また、「思考判断」や「技能表現」については学生が消極的になりすぎるあまり達成できないという点においても適切なサポートを行っていく必要がある。

2214801

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

本科目は社会福祉士指定科目(2年次対象・通年)の1つであり、相談援助実習(3年次)の実施に向けた準備学習としての位置づけられる。学生自身も本科目のこうした位置を認識していると思われ、授業評価アンケートの受講動機は「資格取得に必要である」(77.3%)となっている。
本科目では高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。既述の通り、本科目が実習に向けた準備学習であることから実習領域・施設、利用者理解が深まる教授内容とした。また、授業の展開ではグループワークを多く用い、学生間の相互交流により実習への動機が高まるよう意識した。さらに、視覚教材の活用や見学実習を行うことで、実習のイメージを具体化できるよう工夫した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
やや達成された	達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

担当した高齢者・地域福祉領域(27名)の成績は平均81.1点であった。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う70.8%、かなりそうだと思う16.7%)であり、目標を達成したと言える。「思考判断」(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う29.2%、かなりそうだと思う16.7%)となっており、目標をやや達成できなかったと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う37.5%、かなりそうだと思う20.8%)であり、やや達成できたと言える。「態度」(DP4)については「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う47.1%、かなりそうだと思う23.5%)となっておりやや達成できたと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う29.2%、かなりそうだと思う12.5%)、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」(29.2%)、「かなりそうだと思う」(12.6%)となっていることから目標をやや達成できなかったと言える。
以上、DP項目の幾つかにおいて課題が残るものの、全体の成績評価や学習態度(本科目での図書・雑誌の利用率75.0%)などから、総じてある程度教育目標は達成されたと考える。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
全体の成績は平均81.1点であった。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、思考判断(DP2)と技能表現(DP5)において教育目標が十分に達成されなかったものの、本科目のDP上の位置づけに問題は無いと考える。
②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は3年次を実施する相談援助実習の準備学習として、実習に必要な知識・技術や態度を修得するものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題は無いと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートからは、質問への対応(受け付ける機会)が課題として明らかになった。今後は学生個々の理解度や学習の進捗状況の把握を十分に 行い、適切に対応していきたい。また、本科目では学生が図書館を積極的に利用するなど、主体的に学習を進めていることがわかった。特に本科目におけるイン ターネットの利用率は100%になっている。引き続き学生のこうした学習態度を引き出し、実習への動機が高まるよう取り組みたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。但し、本科目は実習への準備・事前学習としての位置づけにあることから、今後は本科 目で修得した知識や技術が実際の実習場面でどのように役立ったか/役に立たなかったか、といった視点での評価も必要であるとする。
-------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、3年次の「相談援助実習」に向けた準備学習を行う科目として位置づけられる。授業は、2年次までに修得した相談援助にかかわる基礎的な知識・技術を障害者領域に特化して再度復習、整理し直し、加えて社会福祉士を目指すモチベーションを確認して、実習に向けた自己の準備性や対人援助職への適性を確認していくことを目標として展開した。受講動機を見てみると、「資格取得に必要である」との回答が91.3%を占めるが、「関心のある内容である」との回答は4.3%と著しく低く、また選択科目であるにもかかわらず「必修科目である」との回答も21.7%見受けられる。このことから必ずしも社会福祉士取得に意欲の高い学生のみが受講している訳ではないことを踏まえ、将来の進路を見定めていくことも目標に加えて、できるだけ実習やソーシャルワーカーの仕事をイメージ化できるよう指導内容に反映させていくよう努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は77点で標準的レベルに達したが、最低値60点、最高値95点と成績の開きが大きかった。この結果は、3. に記した資格取得のモチベーションの有無や、また2年次までに修得した知識を統合化し、アウトプットできる力があるかに関わっていると考えられる。このことは学生の学習達成度の自己評価においてDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値が3.3と最も低かったこととも関連していることが考えられる。またDP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が平均値3.4、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」が平均値3.5と低かったため、次年度はより実習に必要な技術の演習を授業内容に加えていきたい。ただ「職業選択の参考になった」が平均値4.0と最も高かったことから、将来の進路を見定めていくという授業の目標についてはある程度達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につなぐ科目として位置付けられている。学生の資格取得へのモチベーションに課題はあるものの、本科目を通して学生が進路を定めていくことに貢献できた点で内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように実践に必要な技術の獲得には課題が残った。これについて、次年度は技術演習などをさらに取り入れることでこの課題に取り組んでいきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目については、平均値4.3~4.6と高かった。自由記述としては「課題が多かった」の意見があった。ただ学習量の評価を見てみると、授業に参加するために準備をした学生は4%、4, 5回は17%にとどまっており、課題の量には問題がなかったと考えられる。また図書館利用では、「図書、雑誌を利用した」学生は48%、「インターネットのホームページを検索し、利用した」学生は87%と比較的高い利用率であり、課題への取組みとして利用していたことが考えられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につながる科目として位置付けられている。本科目を通して「職業選択の参考になった」の評価から、学生が進路を定めていくことに貢献できたと考える。学生の実習への準備性については、基礎的な知識・技術を障害者領域に特化して再度復習、整理し直すという点では、DP1に関わって「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目で評価は高かった。しかしDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」の項目での評価が低かったため、次年度は実習に必要な技術の習得とその応用力を高めていくような演習内容をさらに授業に加えていくことを課題としたい。

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	他の領域と指導内容の大筋は同じであるが、医療分野における実習についてをイメージ出来るよう必要な資料やビデオを視聴させ講義をした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	「到達度自己評価」DPの各項目は3.5以上であり学習の効果があると思われる。指導することに終始したため講義中心になり、「授業の質評価」の項目で「話し合う、発表するなど、学生が参加する機会」がなかったと評せられた点は今後検討することにした。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CPともに内容は妥当性はあると考える。
--	------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

インターネットの活用を積極的に行い、疑問点を調べさせるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

社会福祉施設などとは違い、特殊な場面が多いため、実習までの不安を取り除くことを指導上のポイントとしている。学生らの理解の深まりは高いと思われる。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目(3年次・通年)の1つであり、相談援助実習(3年次)の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当し、実習前指導では実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の修得を通して実習への動機を高めた。実習後指導では個別面談やケース検討会、実習報告会を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	担当した高齢者・地域福祉領域(17名)の成績は平均81.4点であった。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う64.7%、かなりそうだと思う35.2%)となっており、目標を達成したと言える。「思考判断」(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う58.8%、かなりそうだと思う5.9%)となっており、目標をやや達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う70.1%、かなりそうだと思う17.6%)であり、目標を達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う47.1%、かなりそうだと思う23.5%)となっており、目標をやや達成したと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う76.5%、かなりそうだと思う5.8%)であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」(35.3%)、「かなりそうだと思う」(41.2%)となっていることから目標を達成できたと言える。 以上、本科目における教育目標は総じて達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の成績は平均81.4点であった。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、すべてのDP項目において「達成された」または「やや達成された」となっており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助実習の実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目における実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの結果からこうした態度を引き出せていない状況が窺えた。例えば、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」64.7%が示された。また、図書館の利用においても、図書・雑誌の利用をしていない(58.8%)、インターネットの利用をしていない(47.1%)が見られた。こうした学習態度については、相談援助実習指導Ⅰと異なる結果が示されており、今後さらに実習への動機づけを強化するとともに、実習現場で活用される知識や技術等について具体的に示していく必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。しかし既述の通り、実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点では課題が明らかとなった。また、相談援助実習指導Ⅰと同様に、今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導(個別面談、発表、レポート)が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生各自が配属される医療機関についてインターネットなどで調べさせるように指導。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、平均値が3.5以上であり教育目標は達成されたと考える。図書館の利用が少なく、インターネットの利用は高い傾向にある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

医療機関について説明をするが、なかなかイメージに繋がらないことが多い。今後、実践現場のソーシャルワーカーに講義してもらうなど配慮を検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

概ね、実習指導に基づき行うことが出来ていると思われる。

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。授業は実習前指導、実習配属中の指導、事後指導からなり、事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通じた実践と理論との統合化を目標に展開した。受講動機を見てみると、「必修科目である」88.2%、「資格取得に必要である」70.6%となっており、ほとんどの学生は資格取得のための履修であるが、「関心のある内容である」が23.5%と、前段階の「相談援助実習指導Ⅰ」の4.3%と比較すると、若干の関心が見られた。学生の関心を高めるために、事後指導ではそれぞれの学生が経験した内容に基づいてグループワークを行い、それに関連したソーシャルワークの理論やアプローチを提示したり、時事問題との共通性を提示したりするように努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終的な成績の平均値は80点で、十分なレベルの達成度であったと言える。成績の最低値67点、最高値87点であった。学生の学習達成度の自己評価においては、すべての項目において、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」を選択した学生はおらず、全員の自己評価が標準レベル以上に達していたと言える。その中で最も平均値が低かったのはDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の3.4であった。これは相談援助実習における学生の実感が反映されていることも考えられるが、事前学習の中で実習中における対応方法等を指導したり、事後学習の事例検討などにおいて応用力を高めていくような指導をするなど、さらに工夫をしていく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践と連動して展開される科目として位置付けられている。4. に記載したような成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように実践の場における対応方法の獲得には課題が残った。これについて、次年度は事前学習において実践場面を想定した対応方法の指導、事後指導において実践の応用力を高めていくような指導を強化していきたい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価において、「期限内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の項目については、平均値4.1と最も高かったものの、「説明は理解しやすいものであった」は平均値3.4と最も低かった。学生によりわかりやすい丁寧な説明をしていく必要がある。学習量の評価を見てみると、11回以上の予習をした学生が41%、7回以上の復習をした学生が39%いた。実習前後の課題も多かったためと考えられるが、「自発的学習」をした学生も少数であるが29%おり、実習の経験が自発的学習を促したことが考えられる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。4. に記したように成績および学習達成度の自己評価からは概ね授業の目標は達成されたと考えられるが、ソーシャルワークの視点形成、実践と理論との統合化という目標に照らしてみると、DP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の項目で評価が低かった。したがって次年度は実践場面における対応力を高めるため、事前学習の中で実習場面を想定した事例等を提示して対応方法を指導したり、事後学習の事例検討などにおいて応用力を高めていくような指導をするなど、さらに工夫をしていきたい。また学生への説明についても、よりわかりやすいレジュメ作成や説明方法を検討していきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現場実習に向けての事前学習、事後学習を行う科目である。単に「資格取得のために必要である」からではなく、実習を通して何を学びたいのか、何のために実習に行くのかを改めて考えることについて問いかけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が平均3.5点と最も低くなっている。児童領域においては生活援助を通しての相談援助を学ぶことになるため、ケアワーク中心であることの不満足、生活援助を通してソーシャルワーク的視点で援助を考えるという多角的な視点がなかなか備わらないために、このような結果になったと考えられる。児童領域の実習指導において重大な課題であるが、現場との連携を強化しつつ、事前学習、事後学習においてスーパービジョンを強化するなどして改善を図っていきたい。 なお、当初は緊張や戸惑いなどのため消極的であったり、援助者としての視点から子どもとの関わりを捉えることのできなかった学生が数名いたが、前期実習終了後のスーパービジョンを通して後期実習においては立ち直り、こどもとの関わりにおいて工夫したり関係構築を達成したりして全員が最後まで実習を終えることができ、実習後のまとめにおいては各自が援助的視点についての学びを自分なりのことばでまとめて発表することができたため、「意欲関心」「技能表現」については達成されたとした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生は実習を通して一定の成果を得ており、内容的には妥当であると考える。
---	-------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「学習量の評価」において課題が残っている。実習に向けての十分な準備をして臨むことが実習へのモチベーションにもつながり、福祉系専門科目全体への学びのモチベーションにもつながるものであるため、各自の理解度や実習先において求められることに応じて課題を明確にし、よりモチベーションを高めていけるよう個別指導に力を注いでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目への取り組みは実習へのモチベーションを反映するものであり、福祉系専門科目全体への学びのモチベーションにもつながるものであるため、各自の理解度や実習先において求められることに応じて課題を明確にし、よりモチベーションを高めていけるよう個別指導に力を注いでいきたい。

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉に関する制度とサービス	1	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が11/37人おり、「資格取得に必要」が34/37人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.7点であった。再試対象はいなかった。理想的レベル(80点以上)に到達した学生は23/44名と、全体的な到達度は達成されたと考えている。意欲関心に関しては、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、1年後期から始まる精神保健福祉士コースの最初の科目である。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるが、他の資格と迷っている学生も受講していた。精神保健福祉に関しての興味関心を広げるように講義の前半は意識して行った。そして資格を取得した後の専門職になった時に必要な法律や制度に関して、また、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、2年次の精神障害者の生活深淵システムや援助技術系の科目へとつながっていく入口の役割がある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価においては、授業の質評価の中で、テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであったの項目で、全くそうではないと思うと回答した学生が1名いた。第1回目のコマで授業の評価については、説明をしているのだが、届いていないということもある点を頭に入れておく必要があることがわかった。次回からは、もう少し時間をかけて、また頻回に説明する機会を設けることとしたい。そして授業以外の学習に関して0回の学生が28名だった。今後は文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点3.6で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が9/18人おり、「資格取得に必要」が12/18人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78点であったが再試対象が2名(1名は試験を欠席したため)いた。理想的レベル(80点以上)に到達した学生は14名と、全体的な到達度はやや達成されたと考えている。一方で、2名の学生が再試対象となっており、個別の理解度を中間地点で把握できるような仕組みの導入を検討したいと思う。意欲関心に関しては、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、1年後期から始まる精神保健福祉士コースの制度系科目履修後の相談援助技術の総論である。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるため、資格を取得した後の専門職になった時に必要な知識や理解、興味関心を広げ、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、3年次開講の援助技術系の科目への橋渡しとなっている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	より多くの機会を設けて、文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点3.3で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行ったり、後期のみの講義で、30コマあること(週に2回)から学習状況確認のために、16回目に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が約3割を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものを感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格は取得し国家資格も取得するけれど、精神方面には進まないという学生の受講もあったが、障害福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が3.4と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討していきたい。次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、指導を行いたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、2年次に受講していない学生（進路変更者等や、障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者）受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととしたい。また、後期にこの講義のⅡが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得すすために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習に関して具体的な指示を出すことにしたい。
------------------------------	---

2215700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習 I	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮して講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標>	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、とても楽しい15回でした、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.9と、比較的に低かった。その場面設定は行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行ったが、2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、次年度以降の課題としたい。また、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多かったが、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなく、次年度は利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復習も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習、学術データベースの利用方法に関しても具体的な指示を出すことにしたい。

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が12/14人おり、「資格取得に必要」が11/14人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自己評価を見ると、概ね達成したと答えた学生が多い。医療実習前後の演習という位置づけであるため、実習に向けての職業倫理や行動規範について学ぶことができた学生も多く、概ね全体的には達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次の通年の演習であり、医療機関実習に出る事前指導及び実習後の指導も含めた演習である。精神障害者の理解や法律及び制度の理解を含めて精神保健福祉的課題へのアプローチを行うものである。精神保健福祉援助実習Ⅰへの準備と事後指導という位置づけであり、内容として妥当である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目について平均点4.1だった。できるだけ主体的に学生が取り組めるように環境を整えていき、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマが多く、グループワークが展開できるような演習を意識して行っていたための評価であると考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。
------------------------------	---

2215900

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.1と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、具体的に指導を行いたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近づくということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習に関しても具体的な指示を出すことにしたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅰ(医療機関実習)の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら医療機関実習に臨むことができている。実習終了後のグループワークの中でも、自信の実習中のことを振り返ることができしており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次の精神保健福祉援助実習Ⅰに対しての、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉援助実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。従って、内容的には妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた項目は平均点が4.6、及び質問の受付答える機会の提供の項目については平均点4.3だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。 実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないと思う。次年度は、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が12/16人おり、「資格取得に必要」が11/16人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた実習Ⅱ(地域実習)の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での学びを通して4年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら地域実習に臨むことができています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年次の実習Ⅱに向けた事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目について平均点3.6だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。 実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。
------------------------------	---

2216400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目ではないが、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための専門科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていと感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が3.1と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、具体的に指導を行いたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士の国家試験受験資格の科目ではないが、その関連性が強く、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度は予習復習に関しても具体的な指示を出すことにしたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学基礎実験	3	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	認定心理士の資格取得に必修の科目である。学生は今期までの間に「心理統計学」および「心理学研究法」を履修しているものの、実際に一定の目的に沿ってデータを収集・集計・分析し、結果をもとに考察をするという理系科目のような実験の経験はしたことがないと考えられた。したがって、初めに実験レポートの書き方の講義を行い、レポート作成時にはルーブリック評価にて評価基準を提示し、レポート提出前にレポートの自己評価を行ってから提出するように促した。それでも客観的な結果の記述の仕方、根拠を示したうえで考察していくこと等については不慣れであったため、提出前に自発的に質問に来るように促した。1つのレポートにつき一人当たり3～5回の個別指導を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1つ目のレポートでは、全ての履修者が実験レポートそのものに不慣れであったため、その平均は35点満点中28.2(±3.8)であったが、2回目のレポートになると30・3(±3.3)と平均値が上がった。しかし「自分なりの目標を達成した」の項目においてもその平均値が3.0と低く評価しており、実際のレポートの成績と学生の自己評価との間に若干のかい離が見られた。本学科の他の科目のレポートと異なり、本科目のレポートでは何度も修正を繰り返されたことが原因となり自己評価が低くなってしまったと考えられる。何度も推敲を重ねていくことで自らのレポートの質が向上していくという体験が、研究や論文作成には必要であることを理解してもらえるように促していく必要があると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価のうち「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」といった項目については科目の性質上、平均値がそれぞれ3.0、2.9、2.8と低かった。実際には「人の行動の理解をするための方法論を実験を通して学ぶ」という点では、DP-1と合致していると考えられるが、それが学生の実感としては感じられにくかったのかもしれない。ただし認定心理士協会の方針として2017年度以降、より実験的な内容の授業を求められることになるため、CPやDPとのかい離は益々大きくなるものと想定される。学科の期待する学生の育成と「認定心理士」という資格の性質とが更に離れていく事が考えられるため、2018年度より「認定心理士」を養成しない方向でカリキュラムの改定作業を進めている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価としては3.2－3.5と比較的高い水準であったと理解している。ただし文系学生にとって苦手意識の強い「実験」の手続きや目的に合った結果の提示の仕方、データから客観的に読み取り考察することなど、初めての経験が多く戸惑いが多かったのだと考えられる。こうした経験不足を補完するために、授業時間外での個別指導を推奨したところ、1つのレポートにつき一人3－5回添削・修正を行った。「実験」という授業の性質から考えて、授業時間外でのこうした時間は必須であると考えられるため、今後も引き続き授業時間外の個別指導を徹底していく所存である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	レポートの添削・修正を繰り返し行っていく中で、実際のレポートの質は上がっているものの、何度も壁に躓き自己評価を低下させてしまう事につながった可能性がある。一方で課題レポートの作成に精いっぱいとなり、それ以外の予習・復習をする余裕はなかったと言えるが、課題レポート作成に学生が費やした時間は相当量であったと考えられる。したがって本科目の特性から考えると、学科の他の科目と同一の学習量の評価基準自体に無理があるのではないだろうか。自己評価の低さについては、最初に提出したレポートと添削・修正を繰り返した後のレポートを見返すように促すことで、自分なりの達成感に結びつきやすくなるのではないかと考えられる。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ソーシャルスキルトレーニングと家族療法という2つのテーマについて、理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。 テーマ毎のプロシージャ―は次の通りとし、間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。 導入(教員による解説)⇒ ロールプレイ・グループワーク ⇒ 理論学習(発表と討論) ⇒ まとめ
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績評価、学生の授業評価は下記の通りであった。 ・全体の平均:78.5点 ・ソーシャルスキルトレーニングの得点割合:.77 ・家族療法の得点割合:.78 ・最終レポートの得点割合:.80 ・全体:自分なりの目標を達成:3.3(学科平均3.7) ・DP1-1,1-2:知識を確認、修正したり、新たに得る:3.6(同3.9) ・DP1-1,1-2:事象を理解する視点や考え方を得る:3.7(同3.6) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力:3.8(同3.7) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力:3.5(同3.5) ・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつ:3.5(同3.7) ・DP-5-1,5-2:自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける:3.4(同3.6) ・DP-5-1,5-2:コミュニケーション力や表現力を高めることができた:3.8(同3.7) DPで見る限り学科平均と変わらない範囲と考えるが、自分なりの目標との関係では低い値であった。この傾向は昨年度にも現れていた。受講生達が求めているものに耳を傾けながら内容を作っていくという手順が必要なのかも知れない。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	認定心理士コースではない福祉心理養護教諭コースの学生と子ども家庭福祉コースの学生の履修も増えてきた。それゆえ「関心のある内容である」という受講動機が41%と多くを占めた。 カリキュラムマップ上の位置づけとして望ましい状況ができつつあると考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本人達のペースを見ながら進め方を調整していったが、間延びして感じた面もあるかも知れない。てきばきと進めていく感覚をもつことで、目標達成感も変化する可能性が考えられるため、自らのグループワーク遂行のあり方を見直していきたい。 授業の質に関する学生の授業評価で-.3以上学科平均より低いものは、「評価基準が明らか」「学習範囲や課題が明らか」「説明は理解しやすい」の3点であった。これらについても、次年度の改善課題としたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	履修者の状況が変わりつつあることを意識して、従来の方法に拘泥しないようにしたい。 ・SST、家族療法という構成で進めているが、内容について学生の要望を尋ねる機会を設け、調整を行う。 ・一方で、グループワークの教員側の視点を整理し直し、焦点を再度明確にして取り組みを進める。 ・教科書を用意する方が良いのかも知れないので、検討を行う。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	急遽、本年度のみ担当した科目であり、前任者から引き継いで実施した。 高齢者の心理アセスメントは、アセスメントの理論を整理しつつ、手順を実施しながら、高齢者への適応の難しさと工夫などを考えた。 高齢者への心理療法は、その基本的な考え方、多様な技法の展望を解説の上、回想法を中心にロールプレイ等を通してグループワークを行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は平均点が73.3点であった。 学生の授業評価は下記の通りであった。 ・全体:自分なりの目標を達成:2.8(学科平均3.7) ・DP1-1,1-2:知識を確認、修正したり、新たに得る:3.2(同3.9) ・DP1-1,1-2:事象を理解する視点や考え方を得る:3.2(同3.6) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力:3.2(同3.7) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力:2.9(同3.5) ・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつ:3.0(同3.7) ・DP-5-1,5-2:自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける:2.8(同3.6) ・DP-5-1,5-2:コミュニケーション力や表現力を高めることができた:2.8(同3.7) 以上のように、学生の評価は厳しいものであった。あらかじめ、臨時的に担当すること、高齢者の心理臨床を主体とするものではないことを明示した上での出発であったこともあり、当初より不満を感じていたものと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	とくに問題なし。
--	----------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

必要に応じて本来の担当者に問合せながら進めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

このような場合は非常勤に依頼することが望ましい。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学科が養成する資格を取得する上で、胎児期～児童期までの発達過程について心理学的観点から理解することは極めて重要であると位置づけているが、資格取得のための必修科目に指定されていないため、受講者数が約半数にとどまっているところが気になった。内容的には理論的要素の強い学問領域ではあるが、自らの発達を振り返ることができるためイメージしやすいところがあったと考えられる。またできる限り、具体的な事例などを紹介することでイメージの共有を図った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は77.9(±17.5)であり、最終的に単位を取得できなかった者(放棄した者を除く)はいなかった。学生による到達度評価の平均が3.5と高めであり、知識を確認・修正・獲得の領域も3.9と高かった。学習量は低いものの授業の内容の理解は十分であったと評価できる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の内容は福祉の専門職(特に児童・障害児・教職・保育)にとって必須の知識と考えられるが、選択科目として位置づけられておりCAP制の問題もあるため、受講者数が少ない点が気になるところである。これについては、カリキュラム改定時に検討の余地があると考えられる。こうした点を踏まえると学科のCPとは合致していると考えられる。学生の受講動機としては「必修科目である(実際は異なるが)」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」がそれぞれ8.9%、57.8%、35.6%が多くを占めており、この点からは内容的妥当性があるものとする。一方DPは標準的水準以上の達成をしていると評価しているものの、学生の学習量は十分とは言えず、授業の内容以上に知識を増やそうという意欲のある学生が少なかったのが残念な点である。人間の発達の複雑さ、面白さに触れ、自発的で発展的な学習を促すよう、参考文献などを適宜紹介していきたい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.3－3.7と比較的評価が高かったと理解している。学生からの質問については感想に記載されているものもある。以前の授業では感想に書かれた質問に文書で応じたこともあったが、回答だけで4、5ページに至り先に進めないこと、学生自身が自己学習する機会が減ってしまうことが懸念されたため、今期(2016年度前期)より第1回目の授業の中で、「分からないことがあれば、一度は自分でレジュメや教科書、その他の関連図書を読んで解決する努力をしてほしい。その上で分からないことがあれば、直接質問に来るように。」と伝えることとした。また参考になる関連図書についても提示した。予習・復習の仕方については、一人ひとり理解度や学習方法が異なるため、各自に必要な程度・方法で行ってほしい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生自身の到達度評価及び成績も概ね高い値を示していると考えられるため、本科目においての授業構成・展開でさほど問題はないと思われる。課題としては、学生が自発的・発展的に学習するように、レジュメに提示されている参考文献を読むなどの注意喚起を行っていく。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達臨床心理学	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	急遽、本年度のみ担当した科目であり、前任者から引き継いで実施した。 全員が認定心理士コースというわけではないため、発達心理学の論文を読んでいくにあたり、研究方法論に関する解説を分かりやすく入れていくなど、配慮するようになった。また、発表を順に済ませていくことで、達成感を味わえるように進めていった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	観点別の成績は下記の通りであった。 DP1-1 71%, DP1-2 64%, DP2-1 70%, DP2-2 80%, DP3-1 71%, DP3-2 70%, DP5-1 88%, DP5-2 82% 学生の自己評価は下記の通りであった。 DP1:新たな知識3.7(4.0)理解の視点3.4(3.6), DP2:課題検討3.7(3.6)判断3.3(3.6), DP3:3.4(3.7), DP5:表現力4.0(3.7) 表現力は平均を上回っていたが、これは成績評価DP5-1の高さと合致すると思われる。 課題としては、論文の理論的背景まで考察すること(DP1-2)が特に弱いことがあげられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価結果にある7名の受講動機は「資格取得に必要である」43%、「単位数を確保する」29%、「関心のある内容である」29%であり、「資格取得」が「関心」よりも多い傾向にあった。また、「単位数確保」をあげる学生も29%であった。 必ずしも発達心理学の基礎を押さえていない学生がいることから、目標設定のあり方や内容などを検討する必要があるようである。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	さまざまな動機で参加していることを念頭に、設定した課題をこなすなど評価の原則は守りつつ、議論の進め方などでは、「柔軟に、分かりやすく、全員が発言し、傾聴する」を心がけた。 全員が発言する機会があったが、30分以上の予習が0回とした学生が1名いたことは押さえておきたい。 図書館の利用に関して、データベース利用が7名中6名と多かったことは、指導に従って学習が進んだことを示している。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標はやや達成されたという状況であり、当初の動機づけ、準備性に合致した解説資料の補充など、今回の授業法に関しては改善の余地があると考えた。とくに単位を確保するために受講した場合、準備の不十分さを抱えたままでも、参加者の協力でこなすことができたが、生活面の立て直しを図るような指導が必要だったかもしれない。今後の課題としたい。
------------------------------	---

2217800

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理学 I	1	後期	選択	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

養護教諭や保育士など免許・資格取得のための必修科目になっていることが受講動機の大半を占めており(それぞれ44.7%、63.5%)、関心のある科目であるという受講動機は非常に少ない(16.5%)ことが本科目の特徴である。そのため選択科目ではあるものの「心理学概論」よりも受講生が多く、多くの学生にとっては「必修であるから受講した」と考えている事が予想される。本科目は「臨床心理学の概論」的な内容となっており、その歴史や成り立ち、臨床心理学の代表的4つの理論についての解説が中心である。同じ臨床心理学でも、立場によって大きく考え方や強調する点が異なり、それらを創始者の人生や人間観から理解するという事が期待されるため、やや抽象的な内容となる。授業評価欄に記述はなかったものの、第1回目の授業後の感想欄には「心理学概論と比べて、本科目の方が自分の持っていた心理学のイメージに近い」などの記述も見られたため、文系学生にとっては理解しやすい内容だった可能性はある。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は74(±13.4)であり、最終的に単位を取得できなかった者(放棄した者を除く)は1名であった。学生による到達度評価の平均が3.6と高めであり、知識の確認・修正・獲得の領域も3.9と高かった。学習量は少ないものの内容の理解は十分であったと評価できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目の内容は「臨床心理学概論」に位置づけられる。養護教諭及び保育士の必修科目となっているが、社会福祉士及び精神保健福祉士にとっても必要な専門的知識及び理論であると考えられるため、学科のCPから見て内容的には妥当であると考えられる。また開講年次にほとんどの学生が受講している点、受講動機に「必修科目である」、「資格取得に必要である」とした学生がそれぞれ44.7%、63.5%であり、その点が学生にも周知されていたと理解できる。一方DPは標準的水準以上の達成をしていると評価しているものの、学生の学習量は十分とは言えず、授業の内容以上に知識を増やそうという意欲のある学生が少なかったのが残念な点である。将来対人援助職を目指す者として、人を理解するための様々な視点を得ることの必要性を自覚し、自発的で発展的な学習を促すよう、参考文献などを適宜紹介していく。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.3－3.8と比較的評価が高かったと理解している。学生からの質問については感想に記載されているものもある。以前の授業では感想に書かれた質問に文書で応じたこともあったが、回答だけで4、5ページに至り先に進めないこと、学生自身が自己学習する機会が減ってしまうことが懸念されたため、今期(2016年度前期)より第1回目の授業の中で、「分からないことがあれば、一度は自分でレジュメや教科書、その他の関連図書を読んで解決する努力をしてほしい。その上で分からないことがあれば、直接質問に来るように。」と伝えることとした。また参考になる関連図書についても提示した。予習・復習の仕方については、一人ひとり理解度や学習方法が異なるため、各自に必要な程度・方法で行ってほしい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生自身の到達度評価及び成績も概ね高い値を示していると考えられるため、本科目においての授業構成・展開にさほど問題があるとは思っていない。課題としては学生が自発的・発展的に学習するように、レジュメに記載している参考文献を読むよう注意喚起を行う。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① シラバスについては、本科目の該当DP、授業概要、達成達成すべき行動目標と達成目安についてパワーポイントを用い説明した。なお、試験直前に戸惑わないよう評価法について丁寧に説明した。早期からの講義の振り返りを促すため授業の達成目安と評価法は授業回数半ばでも再度説明した。 ② 基礎的な事項から始め学校現場などにおける感染症事例を展開しながら講義を実施した。また、子どもや高齢者の感染症について最近のトピックスを中心に講義した。 ③ 質的・量的にかなり重たい講義のため講義内容を整理するためのポイントを講義進行にそって数回提示し自主学習を促した。 ④ レポートは評価項目を明確に示した。図書館のデータベースを積極的に使い図書や雑誌を選定するよう指示した。データベース利用については、図書館と連携しスタッフの方に協力をいただいた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 総合評価の平均値は73点であり、再試対象は2名であった。92%の学生が標準的レベルに達しており、理想レベルと思われる80点以上の学生は40%であった。また、レポート課題の平均得点は9点/10点とテストに向けた学生の準備状況は良好であった。 ② 自由意見より知識の整理は、教科書・参考図書を用い振り返る、提示した重要ポイントにそってまとめるなど学習に主体的に取り組んでいる様子が見られる。雑誌を利用した学生は66%、データベースを利用した学生は70%であった。講義初回でシラバスについて丁寧に授業概要を説明した効果があったと思われる。また、学生の知識理解の到達度自己評価平均値は4.3で学生は知識を確認、修正、新たに得ることができたと回答している。 ③ 課題レポートの評価基準は明確に示し詳細に説明した。平均値4.3と学生の評価も良好で、「今後のレポート作成に活用する」との自由意見があった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 この科目は専門教育科目で養護教諭取得免許取得に必要な必須科目である。福祉・医療・学校現場で必要な感染症の知識を身につけるうえで内容としては妥当であると考え。 ② DP、行動目標からみても内容的妥当性 養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の習得を目指しているため学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。昨年度の課題は改善されている。 ③ まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「試験について詳しく教えてほしい」との学生の自由意見がある。シラバスに記載した到達目標を繰り返し説明し試験に向け準備するよう促したい。 ②次年度も今年度同様学生に課題を与え積極的に自学するよう促す。学生の図書利用率66%・学術データベース利用率70%を更に上げるように工夫し積極的に学習に取り組むよう促したい。 ③質的・量的に重たい科目であるにも関わらず、「説明は理解しやすい(評価平均値4.4)」、「専門分野での知識を深めたいと意欲をもった(評価平均値4.2)」との学生の評価を得た。次年度もこれを維持できるような講義を行ないたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目、教員免許資格に関わる科目として将来の就職現場に必要な知識を習得し、理解するという目標は達成できたと思われる。次年度も今年度の授業における取り組みを継続し行なう。また、習得した知識が、将来の就職現場にどのようにつながるかをイメージできるような講義内容を提供することで学生の学習に対するモチベーションをあげていきたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、食物に含まれる栄養素の役割やその人体での機能について解説し福祉に従事する立場から健康・栄養の大切さへの理解を深めることを目的としている。本科目は選択科目で、養教一種免許状の資格取得の必修科目である。今回の受講動機では「必修科目である」が21.9%で「資格取得に必要である」84.4%であった。授業の準備性について、4～5回以上の予復習を行った学生は殆どいなかった。次年度に向けて、予復習の取り組みの状況を改善できるような講義の進め方及び教材について検討を行いたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合的な成績の平均値は85.0(±11.1)点であった。再試対象は2名であった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル(概ね80点以上)に達したものが多かった。学生による授業評価においては、約97%が新たな知識を得ることができており、自分なりの目標を達成している。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得た者も80%を超えており、教育目標は概ね達成できたと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、選択科目(養護教諭一種免許状の必修科目)であり、栄養学の基礎的な知識の修得を目指している。学生による授業評価においては、85%以上の学生が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力を得ることができたと評価している。また、成績評価においては、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予復習の取り組みをしたものの割合が低かったため、授業の進め方を検討すると共に、自発的学習の動機づけとしてまた情報収集の場として図書館やインターネットの利用を促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目における学習到達度の自己評価から、多くの学生が目標を達成し、栄養学分野において新たな知識を得て、的確に判断する力を得ることができたと推察する。次年度に向け、効果的な予復習を進められるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討するとともに、図書館やインターネットの積極的な活用を促したい。学習課題以外にも効果的に予復習を進めることができる、またはその動機づけになるような教材や授業の進め方を検討し、より良い講義内容を構築していきたい。

学科	福祉学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、細胞の機能から始まって、生命体維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問であるが、福祉学科の専門分野と関連が深い、神経系の働きについて理解することに重点をおいた。高等学校で学んだ、生物基礎の知識を基に、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、神経系に関する基本的な事柄が理解できるように努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに対して、全員が「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答を行っている。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができたか」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対しても肯定的回答が100%であり、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。 期末にテストによる成績評価を行ったが、全員が合格点を超えていた。期末試験問題として、過去の国家試験に出題された項目をなるべく網羅するように心掛けたが、この結果から、多くの学生がこの科目に積極的に関わったものと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、社会福祉士国家試験の中の、「体の構造と機能及び疾病」において重要な生理学分野の科目である。受講生の8割近くが、資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」や「微生物学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病のなりたちについての正しい知識を身に着けるための科目である。 ここ数年の「体の構造と機能及び疾病」の分野の国家試験問題は、きわめて難易度の高い設問も含まれており、この科目の授業内容では不十分な点もあるかと思われる。授業時間が限られる中で、難しい課題ではあるが、国家試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、さらに努力する必要がある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義のほかに、ビデオ教材を用いたり、血圧計やスパイロメーターなどのデモを行うなど、「生きた生理学」を体験してもらうことも、この授業で目指したものであった。 「驚異の小宇宙 人体Ⅱ」のビデオ教材は、記憶や感情、視覚などに関する生々しい現場の情報を得ることに触れる機会を提供するものであったが、ビデオ教材についての感想文からは、多くの受講生が真摯にこの課題に取り組んだことが伺われた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	限られた授業時間内に、人体のすべての臓器についての基本的事項を講義することは不可能である。生理学に関する過去の国家試験問題はなるべく授業で取り上げるように努めたが、必ずしも受講生にとって直ちに理解できる内容ではなかったかも知れない。「内容がむずかしかった」という受講生の意見もそのことを反映しているように思える。 今後の課題としては、2年前期に開講されている「解剖学」との連携を強める努力がさらに必要であると考えている。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動処方論	3	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「関心のある内容である」と答えた学生は77%、「単位を確保する」が62%であった。 授業においては、1年次の「健康科学」の内容を振り返ることで、健康に関する正しい理解を促すと同時に、高齢者、妊婦、および子どもに適した運動（遊び）のプログラムの作成方法について具体的に説明を行った。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次の授業で説明を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.5(±10.7)点であり、再試対象者はいなかった。成績分布別にみると、90点以上が24%、89～80点が46%、79～70点が15%、69～60点が15%であった。全員が標準的レベルに達しており、そのうち70%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が69%、「わりにそうだと思う」が31%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7）。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が8%、「わりにそうだと思う」が62～77%、「まあまあそうだと思う」が15～31%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8～3.9）。 「思考・判断 (DP2)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が8%、「わりにそうだと思う」が62～69%、「まあまあそうだと思う」が23～31%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。 その他「意欲・関心 (DP3)」、「技能・表現 (DP5)」、「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ4.0、3.3～3.6、3.3であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「保健・医療関係科目」に含まれる科目である。授業では高齢者、妊婦、子どもそれぞれの特徴を理解させた上で、それぞれに適した運動（遊び）プログラムの作成方法について具体的に解説を行った。「知識・理解 (DP1)」、「思考・判断 (DP2)」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、95%以上の学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.3～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、6回が15%、4.5回が23%、2.3回が23%、1回が31%、0回が8%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が8%、4.5回が31%、2.3回が23%、1回が31%、0回が8%であった。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は77%であったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では専門科目の必修であるが、養護教諭コース選抜前であるため、進路を確定していない学生の受講もあり、授業への取り組み、学習の準備に個人差がみられることを予想して授業の内容を工夫した。受講動機をみると「必修科目である」30.0%、「資格取得に必要である」86.7%、「関心のある内容である」20.0%と数値に差がみられることからコース選抜の影響が示唆される。 ②専門科目の履修がまだ少ない2年生なので、ノート作成、レポートの書き方、課題の調べ方なども指導を行い、また予習復習ができるように課題を提示し、学習意欲が高まるように努めた。 ③昨年度までと同様、授業の終わりに学生自身が記入する「学びと学習状況」カードを取り入れるなどして授業の工夫を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.4(±4.5)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)達成者は76.5%であり高い数値であった。 履修者の学習到達度自己評価では、目標別にみると知識理解について94%、思考判断90%、意欲関心97%、技能表現90%の履修者が到達できたと思っている。(到達度平均値では3.4～3.9) 授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」という観点では平均が3.7であった。これは、事例や課題を提示してその能力が高まるように授業を工夫したことによると考える。ただし、履修者の学習量については、ほとんど予習(3名)・復習(4名)をしなかった。他の学生も復習の時間が十分でないので、予習復習に自主的に取り組むように指導することを今後の課題としたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は、養護教諭コースの専門科目であり、必修であり、養護実習につなげる科目であり、学校現場の実状を提示することで、動機づけを高め、学生も一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であったと思われる。②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	履修者の意見では、講義時間について「始業が遅いとの意見がある」が、本科目が月曜日の2限目であり、1限目に3年生の授業があり、しかも講義室がOA対応となっておらずプロジェクター等機材設営(教務課から借用)前時の片づけに時間を要してしまったので、10分間の休憩時間では大変困難であるが、今後は準備を早くする工夫をしていきたい。 授業中の態度で問題のある履修者(ガムをかんでいたり、私語)に対する指導をどのように指導するのか検討課題である。 「教科書に沿った授業ではなかった」などの意見も出ているが、学校現場での児童生徒の対応、養護教諭の職務についてなど履修者の理解が進むように事例を説明してきたが、雑談と捉える履修者もいて残念である。今後はもう少し改善して授業を進めるようにしていきたい。養護教諭コース選抜試験を控えていることが影響していることも考慮する必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	養護教諭一種免許取得では必修である本科目の授業目標、内容は概ね達成できた。効果があったものはさらに高めていくとともに、学習意欲が低い履修者が見受けられ、指導に苦慮した。これについては様々な要因が考えられるので、しっかり分析して、その指導について今後改善を図っていきたい。さらに、わかりやすい説明に努め、授業を改善していきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、地域保健の仕組みや実践活動の具体例など、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。 また、授業の準備性を高めるため、適宜、学校保健との関連性について説明を加えた。 「学修準備性」については、当該資料を受け取っていないため、判断できないが、受講動機を見ると、資格取得と回答したものが29名中25名であり、高い動機が伺えた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭の実践力の育成に関連する科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.7であり、知識理解は達成できたと考え。また、思考判断・意欲関心についても「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」が3.6点であった。 一方、技能表現については、講義形式で座学が中心であったことから、達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.1点、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が2.9点と低くなっていた。課題として検討したい。 全体を通して、最終的な成績の平均点は82点、再試験対象者が0名であった。60点台の成績の者は1名であったことから、到達度としては概ね良好であったと考える。授業の予習復習や課題への課題については取り組む姿勢が見られたが、指示された課題以外の学習に取り組むものの割合が、29名中5名と少ない。参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。学校保健の実践者になる上で必要な関連知識を学ぶ位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としても記述式の期末試験を課し、地域保健に関する基礎的な知識と共に、自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、より学校保健との関連性についての説明を適宜加えていくことが学修意欲を高めることにつながると考える。実際に自由記述を見ると「他の勉強をしているとき関連したものが出てきた」「関連教科と結び合わせて行った」等の意見がみられ、地域保健そのものよりも学校保健との関連性から地域保健事業の背景や課題などをみることによって、知識だけでなく、積極的な主体的学びにつながると考える。また、講義の中で専門用語や組織などは名称や詳細などは、インターネットなどを活用して自主的に調べることを促すことも検討したい。
--	---

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。	総合的評価として、どちらかといえば良好であると考えることが充分であるとはいえない。本講義を担当して2年目となるが、基礎的な理解に重点をおいて行っている。授業の進め方については肯定的な評価(説明は理解しやすいものであった・・・3.9点)もあつたところから次年度も継続して授業改善を進めていきたい。特に、基礎的な知識の修得に加え、授業スタイルとして、発言の機会を増やしたり、ブレインストーミングを取り入れたりするなど、双方向的な授業になるよう心がけ、より主体的な学びにつなげていく必要があると考える。前段でも触れたが、「地域保健をなぜ養護教諭が知っておくべきなのか」という点について受講生が主体的に考えるようにしていくことが次年度の課題であると考え。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では必修であるが、進路を確定していない学生の受講もあり、授業への取り組み、学習の準備に個人差がみられた。受講動機をみると「必修科目である」33.3%、「資格取得に必要である」86.7%、「関心のある内容である」20.0%と数値に差がみられた。 ②昨年度と同様に、総論では三つの大きなテーマを最初に提示し、ペアをつくり、更に4～5名のグループをつくらせて学びが深まるように授業の進め方を工夫した。グループでのカンファレンスさらにグループ発表ができるように工夫し、履修者の学習意欲が高まるように努めた。 ④自己学習の方法を説明した後課題を提示し、図書館やインターネット等を活用した調べ学習、レポートの作成方法や資料の収集方法など指導し、履修者の知識理解、学習意欲が高まるように努めた。 ⑤また、昨年度までと同様授業の終わりに学生自身が記入する「学びと学習状況」カードを取り入れるなどして授業の工夫を行った。全員プレゼンテーションができたが、取り組み方には多少の差がみられた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.2(±4.3)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)達成者は100%であった。全体的に達成された。到達度自己評価では、各観点別の到達自己評価では、知識理解、施行判断、意欲関心については平均3.3～3.7で大きな差は見られず、おおむね達成されたと考える。看護の態度、技能表現については3.3であったが、本科目では理論を中心とする基礎的レベルの修得であったので、達成できたと考える。 学生による自己評価においては、「自分なりの目標達成がほぼできた学生は90.3%でポイントの平均値は3.6であり、					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①自己学習の方法について、図書館やインターネット等を活用した調べ学習、レポートの作成方法や資料の収集方法など指導したが、履修者の学習量評価ではほとんど予習・復習をしなかった学生が見受けられ(3名)、他の学生も復習の時間が十分でないので、予習復習に自主的に取り組むように指導することを今後の課題としたい。 ②授業の開始については、教室の設備の関係でプロジェクター、パソコン等の準備のため遅くなったことは反省しなければならない。また、補講については、学生のアルバイト等を配慮したつもりがよくなかったので、次年度からは準備された日程で進めていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は福祉学科ではでは選択科目であるが、養護教諭一種免許取得では必修科目4単位である。そのため週2コマの連続講義は、学生も負担が大きかったと思われる。しかし、授業目標、内容は概ね達成できたと考える。。効果があつた授業方法などはさらに高めていくとともに、学習意欲が低い履修者が見受けられ、指導に苦慮した。これについては様々な要因が考えられるので、しっかり分析して、その指導について今後改善を図っていきたい。さらに、わかりやすい説明に努め、授業を改善していきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健学	3	後期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生を見ると、受講同期としては資格取得に必要である76%、必須科目である39%、関心のある内容である11%、単位数を確保する11%、と大多数の学生の受講動機はかなり高く、積極的に授業に臨んでいるものと考えて講義を進めた。その際、国家試験問題を参考にして最低限のレベルは維持することをに努めた。また、意欲を高めるために、随時、過去の国家試験問題を提示した。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」として、授業毎に、受講者が「講義の感想、質問、意見など自由に書いてください」と記入した「自己学習記録」を提出し、次回授業の冒頭で質問には出来るだけ答えたり、知識の足りないところを補ったり、修正したりした。このことは、知識を深め、授業への参加意欲を高めることにつながったと考える。③代表的な精神疾患に関しては、講義の初めに模擬患者のイメージVTRを5～10分間提示し、そのうえで講義を行うように努めた。④毎回、講義の最後に、「本日の講義の要点、キーワード」として4～5項目を板書きし、学習の一助とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績をみると、平均点 74.3点であり、再試対象になりそうな学生にはレポートを課して知識理解を補ったことなどから、目的はほぼ達成されたと思われる。②上記の「自己学習記録」における学生の記載内容からも毎回の講義の理解度が大概確認された。③学生の「学習到達度の自己評価」肯定的回答が50、否定的回答は7であったことから裏付けられた。④「学習準備性」は、予習に対しては否定的回答28に対して肯定的回答は29であった。また、あらかじめ授業計画の立案に対しては否定的回答48、肯定的回答9と大半が否定的であった。⑤図書館の利用に関して、図書・雑誌の活用では肯定的回答6、否定的回答49、データベースの活用では肯定的回答3、否定的回答52、ホームページの検索では肯定的回答12、否定的回答43、と大半の学生が消極的姿勢であることが明らかになった。⑥これらの回答結果を検討した結果、今年度のように単に学生の要求に応じて資料提供することは適度に抑えて、学生自身が積極的に理解を求めて努力するような方向での教育、すなわち課題を提示することが必要である(欠落している)ことが明らかとなった。この点は次年度の課題としたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門科目」であるが「専門基礎科目」と「専門応用科目」の両者にまたがる科目である。この役目を果たすべく講義では工夫をしたが、学生も一定の成績を収めているところから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 「受講動機」等を検討した結果、内容的にも妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①4. で触れたことであるが、かつて、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」を自主課題としたことがあるが、ほとんどの学生は手つかずのままであった。今後は、必須課題として提示し確認するような作業が必要であると考え。 ②教科書は日本精神保健福祉士養成所協会の編集したものを使用しており、必要十分な情報が記載されている。講義は、まず、その日の対象テーマについてビデオ画像を提示したり、スライドと配布資料を用いて要点を説明したりした後に、教科書を用いて全般にわたって知識を再確認している。従って、「テキストを読むばかりで主だった解説もなく・・・」との一学生の意見は全く当たらない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①1年半後の国家試験の成績結果でも部分的には評価されるが、ほぼ達成されたと考える。 ②あらためて、課題としては、以下のようなものが挙げられる。i) 如何にすれば、学生たちがシラバスを読んで授業に臨み、授業に集中できるようになるか。有効な方法があれば実施してみたい。ii) 単に学生の要望に応えすぎるだけだと、かえって自助努力する気持ちを殺ぐことになりかねないことを危惧する。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生命倫理	4	後期	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択学生が2名であり、受講動機の第一は卒業不足単位充足のためで、学習への高いモチベーションがあるとは言えない。どちらかが欠席することが多く、授業の予定通りには十分に進行しなかった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年次開講科目であることから、前述のように単位不足者が受講する傾向がある。本科目学習へのモチベーションは高いとは言えない。福祉の対象は生まれてから死に至るまでの様々な問題課題であり、生命倫理の内容については知識・理解・思考・態度の側面から学習の必要性がある。次回のカリキュラム改訂において開講年次、福祉学科に学ぶものとしての生命倫理についての内容の検討が必要である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

2名の受講者であったので、相互の意見のやり取りは深めることができた。対象学生の数やモチベーションに応じて講義形式や演習様の進行等工夫する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の学びや思考を深めるという点ではやや達成されたと言えるかもしれないが、教員の側からの要求水準には遠く及ばない。次年度受講学生とこの点について十分了解を得ておきたい。

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護	3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の準備性というより、授業の開始から数回で社会的養護に関する想像が極めて困難であることがわかったため、各種社会的養護に関する実践ドキュメントのVTRやDVを毎回準備してイメージを抱けせるように配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の結果から、教授内容についてあまり理解されていないことが分かった。VTR等は実際の姿が示されているので、学生の理解促進に寄与するものと想定したがそれもただ視聴したというレベルであったのではないかと推測できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	社会的養護については、机上の学習だけで対象者の困難について想像を働かせることは困難であり、ましてや実践的支援に結びつかいことを鑑み、授業の内容について修正した。一部の学生はこのような補助教材の意味を理解していたが、全員までには伝わっていない。全般を通して、本教科への動機づけや教育内容及び方法を検討していく必要がある。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

履修学生のモチベーションを見ながら履修内容の変更の必要がある。この教科に続いて、社会的養護内容の授業があるが、そこでの再学習についても担当教員に伝達しておく必要性も感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

児童福祉分野でも各論に近い部分であるが、相談援助実習や保育実習で実体験をすることにも密接に関係しており、学生が十分に目標到達できていないと考えられるので、他の関連する授業等でも再学習を促していく必要がある。

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	3	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教育に関する全体的理解を求めると同時に、指導者としての実践性を意識させる科目でもあるため、学生にとっては構造が見通しにくい科目だと思われる。 学生にはこれまでの自分自身の教育経験、現代の教育動向、実習やボランティアにおける子どもとのかかわりをイメージしながら授業に参加するよう促した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体平均は74.0で、授業で求められた内容ある程度理解できたと考える。 ただし、取り扱う領域によって意欲関心に大きな差が見られた。保育的場面に関しては理解や説明の枠組みが一定形成されているためか、反応がよかった。一方、教育の歴史や思想といった身近に感じにくいテーマでは集中が難しいようであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	子ども家庭福祉コースの学生の3年次という意味では、先に保育場面の学習基盤が形成されており、教育原理は必ずしもそれと整合的ではない。本授業では保育を学ぶ学生にとっての教育原理という観点から内容的整合性を保持できるように努めた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回は教育の目的・方法・意味といった部分だけを抜き出して始めるのではなく、教育の歴史や教育改革の動向など一定の社会文化的文脈に位置づけて理解する方法を用いた。それによって社会における教育のダイナミックな姿をイメージできるよう工夫した。ただし、学生の歴史や社会に対する興味や知識が必ずしも十分ではないこともあり、意欲関心を高めるという意味では不十分な点もあった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	どうしても総花的に全領域を紹介することになりがちな科目であるが、少しでも幼児教育の専門職としての意識と教育の本質にかかわる問いを結びつける機会となるような授業を目指したい。教材研究や授業の構造に関する準備はもちろんだが、授業における教師の問いかけとそれに対する学生の反応という基本に立ち返って、そのような授業を成立させるきっかけを探りたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健 I	2	通年	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、その中で2名ほど科目内容に関心があるという結果であった。そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、成績評価においては平均77.2点であり、不合格者も複数出る等、受講者全員が意欲的な学習が進められるような授業構成だったとはいえない。「図書館利用」からは、一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、「学習量の評価」からは、予習・復習をしたのは僅かである。毎授業ごとの小テストを行うことで、前回の授業の重点ポイントを整理したり、学生のこれまでの生活の経験から授業内容が理解しやすくなるように事例を用いての理論の解説を試みたが、全体としての目標達成度はそれほど高いとは言えない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、DPの知識理解、技能表現に合致するものであり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成され则认为。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要がある。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要である则认为一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績平均が77.2点であり、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	川原 富紀枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「必修科目である」50%「資格取得に必要である」75%と双方の数値に開きがある。これは選択科目であるところから、資格の為には必修であるとした考えのもと現れた数値だと考えられる。福祉学科平均値の「必須科目である」70.5%「資格取得に必要である」38.9%と真逆の結果が出ている。「受講動機」としては資格取得を目指していると考えられるが「関心のある内容である」6.3%と関心度の低さがわかる。「子どもの食と栄養」とはいつでも自分自身の食生活こそが基本中の基本であることから、グループ別での食育活動への取り組みや調理実習等するなかで関心を引きつけるようにとじてきている。 ②オリエンテーションの折、シラバスをホームページで確認したかどうかについて質問したところ、確認したと答えたのは一人だけだった。シラバスに次の授業予・復習の内容について記載しているものの、授業の中でも随時伝えることにしたこと最終的には4名が活用してくれた。また、時折授業終了後ミニレポートの提出などで学習状況の確認をするようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は75点(±9.5)であり再試験対象者は0名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した学生は4名で全体の21%と少なく限られていた。目標別に見ると、「知識理解」は73%、「技能表現」は75%で「技能表現」がわずかに上回ってはいるが、ともに70%台で同じような数値ではある。授業の自己評価で中央値より高かったのは「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業選択の参考になった」この2項目であった。少し下回っていたのが「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ること」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力」「コミュニケーション力や表現力を高めること」この3項目である。全体で見ると平均値は3.7で、授業の質評価の各項目の平均値と中央値もほぼ同じであった。しかし学習量の評価では半数が予復習時間が0であり、授業の課外以外の学習に対する取り組みはわずかに4人であった。他の学習に取り組んでいない理由は①実習が多かった②時間がなかった。③他の課題があったため④調理実習だからなど。シラバスの内容確認と8コマ目での学習状況の確認を実施することで学生の予復習への意識を高めていくことにしたい。調理実習に関しては楽しかった、また家でも作ってみた等の声も聴かれたが、他の取り組むべき食育のテーマや討議する課題についてもさらに検討して進めたい。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容的妥協性 本科目は選択科目であるが必須でもある。資格取得のために学生も受講していることから動機付けに苦慮する面はあるが、この課題に答えるようにために授業内容を工夫し、学生も一定の成果を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見て内容的妥協性 成績評価から考えると、知的理解も技能表現も70%台で同じような数値であった。さらにこの数値を「やや達成された」といった領域ではなく「達成された」といった理想的レベルまで内容を修正していきたいと思う。全体的に「やや達成された」といった領域であったことから内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ ことから、進め方や課題は少し残してはいるが、内容的妥協性は問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてほとんどの項目が中央値、またそれをすこし上回っていた。しかしながら「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」とする項目の平均値が3.8と中央値4.0より低かった。初めは質問票や授業の終わりに質問を聞く時間を持ってみたりしたが、質問がでてこないことのほうが多かった。しかし、授業当日終了後、授業に対する自分の意見をまとめ、感想などをメモ程度に提出する機会を持ってみたら少し質問が挙がってくるようになった。しかし普通教室での演習授業の時は良いのだが、調理実習の時などは調理に関する質問に限られ、栄養面や食生活に関することの質問が出にくいようである。調理実習の時でも質問を受けられるようなゆとりを持った内容にしていかなければと考えている。「学習量の評価」での予復習時間は昨年まで0回が50%であったが、予習に関しては42%となり復習に関しては反対に増えて57%であった。予習でいえばシラバスに予習の内容を表記したことによると考えられるが、復習に関してはもっと内容を詳しく記す必要があるのかも知れない。しかし、若干1名調理実習で作った料理を家でも作ってみたとの記述があった。さらに「情報の利用」でもシラバスを参考にしたとする学生が21%計画立案11%と低い結果であった。しかし、図書館等の利用に関しては①図書雑誌の利用が42%、②学術データベースの検索利用11%、③インターネットを検索し利用した63%と決して高いとは言えないが、発表（プレゼンテーション）や課題のレポート提出の折に利用しているということがわかる。さらに図書館等利用もしながら、授業に参加するように促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	基礎的知識の形成は概ね達成できたといえるのかもしれないが、理想的レベルには達していないということを受け止めなければならない。授業過程を振り返って見たとき、授業が捗るように予習課題の提示をしてきたが、復習課題は少なかったと反省している。予習だけでなく復習課題に関しても意識的に提示するようなことを加えていきたい。“食べる”ということは“生きる”ということとして関心を持ってほしいと思っているが、関心度が低すぎと思った。資格取得のためだけでなく自分のこととして受け止めてほしい。そのためにも関心度を上げていきたい。調理実習や演習授業についても具体的なねらいを示して興味が持てるように、学生の意見も聞き取り入れながら来年度に向け改善していきたいと思います。

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ルーブリック評価を導入している。 子ども家庭福祉コースであるが子どもと関わる機会が少ないことが背景にあるため、スタート段階で、準備性を確認するレポートの作成を求め、それを出発点におく。子どもらしさの既成概念を壊すこと、子どもと関わるときの価値志向性の多様性などを理解し、自分の考え方を相対化することからはじめている。根拠をもって考えるという姿勢を大切にしたいため、維持していきたいところである。その上で、個の発達について、関わりの発達について、できるだけ具体例を通して解説している。 また、授業中に問題を提示してのグループワークなど、アクティブラーニングの要素を導入している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均は73.2(昨年度64)で改善した。 DP別に達成度(成績:満点を1としたときの数値)を見ると下記の通りであった。 知識理解 0.7 思考判断 0.7～0.8 学生の授業評価の結果は下記の通りであった。 ・全体:自分なりの目標を達成:3.2(学科平均3.4) ・DP1-1,1-2:知識を確認、修正したり、新たに得る:3.8(同3.8) ・DP1-1,1-2:事象を理解する視点や考え方を得る:3.6(同3.6) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力:3.7(同3.6) ・DP2-1:自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力:3.5(同3.5) いずれも学科平均並みであり、成績も加味してみた場合「概ね達成」と考えて良いと思われた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラム上の位置づけとして、第一に「発達心理学Ⅰ」を事前に受講しているものが少ないため、保育に固有の課題についての解説を多くできないという問題がある。 第二に受講動機として「必修科目である」、「資格取得に必要である」がいずれも66.7%と多く、「関心のある内容である」は7.4%と少ない。保育士にとって必要な子ども理解を中心とする科目であるが、そのことへの関心の低さは特徴的であった。 以上から、全体を通しての子ども家庭福祉コースのカリキュラムの配置や内容などのブラッシュアップが求められていると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	問題を提示して意見を求め、それを整理しながら解説したり、必要に応じてグループワークを展開した。ワールドカフェ形式を用いることで、視点が偏らず、議論も比較的活発になったという事例があった。 「質問・感想・意見」を8回収、整理してプリントを返したが、これらに対する積極的な反応が認められた。 ただし、授業評価では「説明は理解しやすいものであった」は平均よりも-.3低い結果であった。後半の認知発達については難しさを感じた可能性がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最初に、子ども理解の講義であることへの動機づけを検討したい。 また、各種のアクティブラーニングの要素の導入には積極的でありたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 健康	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、実践現場についても十分とは言えないがそれぞれ実習で学んだことをさらなる学びに繋げようという意味も感じられる。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、成績評価においては平均77.3点であり、不合格者も複数出る等、全員が目標を達成したとは言い難い。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目という性質を考えると、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、DPの知識理解、技能表現に合致するものであり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する確認テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、学習方法が明確でないこと習慣が身についていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績平均が77.3点であり、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。授業内容や授業スケジュールなど、学生にとって見通しを持って学習ができるように情報の提示の仕方を工夫する必要がある。また、一部欠席回数や遅刻が多い学生の関心・意欲を高める指導についても課題が見られる。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 表現	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全受講学生の動機がそれに該当する。また、保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。とはいえ、入学後初めての保育内容系科目であり、科目自体に関心をしめず学生も2名程いた。例年に比べ受講人数が少ないため、双方向的に授業展開をする時間が長く取れ、学生のこれまでの経験や学修状況についても適宜把握が可能であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいても8割以上の学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好であり、学生の実感と近い結果であったが、学習に際して、シラバスの活用や図書館利用等は2～3割程度であり、多様なソースを活用した学びには及ばなかったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行う課題があることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

例年に比べ受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。また、授業評価アンケートから、復習時間を確保している学生も半数以上確認され、円滑に授業が進行したと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、検討が必要であると考え、受講人数が増えるほど直接的に学生に教授することが困難となるため、資料提示や学習ソースの紹介に工夫が必要であると考えられる。

学科	福祉学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育	3	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「必修科目である」73.7%、「資格取得に必要である」57.9%と2つの数値に差があること、「関心のある内容である」5.3%(1名)と保育士の資格取得のためには、選択必須であるはずだが学生の受講動機はそれほど高くはないことを示唆するものであった。できるだけ学生が興味を持てるよう具体的な事例や視聴覚教材の活用することで、関心を引きつけるようにした。 ②昨年度の状況を踏まえ、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行い、他の授業との重複をさけ優先順位を確認した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

①教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	前期・後期を通じた最終的な成績の平均値は81.8点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは12名(54.5%)であった。後期のみでは、平均値は83.8点で80点以上は86.4%であった。					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	目標別に見ると、後期は、知識理解に関しては83.9%、思考判断に関する問題は81.9%であった。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による授業評価においては、知識理解を得ることが出来、技術を身につけたとおおむね評価しているが、自分なりの目標を少し達成出来ていないとする学生がおり、この授業の目的や目標を初めにしっかりと確認をし途中で学生が持つ目標とのずれがないか確認をしながら進めることが必要かと考える。また、事象(自然、人、社会、歴史)を理解する視点や考え方を得ることがあまり出来なかったという評価も有り、もう少し子どもを理解する視点や考え方など、またグループワークの際に意識して社会の仕組み等を解説していく必要がある。さらに次年度に向けて、ルーブリックでの評価基準を示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の保育関係科目であり、保育士の資格取得のための必修科目である。授業準備の欄で指摘したように、「必修科目である」73.7%、「資格取得に必要である」57.9%と2つの数値に差があること、「関心のある内容である」5.3%(1名)と動機付けに苦慮する面がある。保育士の対象とする子どもに関する知識・技術としては、NICUIに收容されている乳児期からのこの科目は、内容的に妥当であると考え。周辺科目との関連を持たせながら学生が興味を示すような授業の工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、課題レポートの評価基準を学生が理解しやすいような提示ではなかったためルーブリック等でのわかりやすい提示を検討していきたい。グループワークも発表の機会を増やし、社会に出てからの問題解決の方法を学ぶ機会となっていると考える。全員が図書館を使い、積極的に課題に取り組んでいた。ただ学生によっては、他の教科の課題も多いと言うことで、興味を持った内容でも自主的に深めていくところまではいかないこともあるようである。グループワークのフィードバックを細やかに実施することで、興味関心を深め自主的な学習に繋がるようにしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績評価は一定評価を得られているが、学生の自己評価ではまだ十分ではないことから、毎回のねらいを具体的に示すこと、課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。また、評価の基準も学生にルーブリック等でわかりやすいような提示をやってきたい。また他の教科の課題も多い中、内容の整理を行うことで、授業中に課題を行う時間を確保するようにしたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	より実践的に障害児保育を展開できるように考え、補助的にテキストを用いて自宅学習とレポートも課した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	他の授業等で本科目で既に学習していたと考えられる内容が出てきたときに既知のものとして進められないことが多かった。学生アンケート結果にバラツキが多いのは、本教科の中心的課題である「障害」について関心度にバラツキがあることも起因していると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士養成については必修科目であり、保育場面での有用性へのニーズは高い内容なので、実習での体験と併せていくことでより学習の深化が図れると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

通常の授業と並行して副テキストを使用して自学習しレポートの提出を義務づけた。毎回一生懸命努力してレポート作成している学生とそうでない学生とが一目瞭然の結果であった。またまとめて提出し、義務だけ果たす学生もあり、次年度からはレポート作成から、ノート作成へと方法を変更し、学習のプロセスやその特徴に着目して評価していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

現代の保育では重要な課題である教科であるため、基礎的な考え方や方法については学習を望んでいるが、結果的には学生のモチベーションや関心の度合いが大きく反映している。次年度は、大半の学生が基礎的内容については十分に学習できるように教授を検討したい。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ピアノの演奏技術においては、幼少期からの経験などにより学生によって大きく異なるものであるが、前期の『保育の表現技術Ⅰ』において、初心者であった学生もある程度はピアノを演奏できるようになり、モチベーションが高まってきたことから、さらにそれを高め、到達目標をより高いところにおいて日々の課題に取り組むことができるよう努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期より難度の高い曲に挑戦し、弾けるようになる学生が大部分であった。ピアノの演奏のみでなく、弾き語りという難度の高い課題が加わっての後期試験となったが、大部分の学生は十分に準備をして実技試験に臨み、全員の評価点の平均は86.9点と高得点となった。1名のみ再試験受験となったが、再試験までの間数回にわたって個別指導を受け、課題を達成し、合格することができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価はいずれも高い評価となっており、内容的に妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」「学習量の評価」いずれも予想を上回る高評価だったが、自由回答において授業の課題以外に取り組んでいない理由について「わからなかった」との回答があり、各自の課題とさらに発展的に学ぼうとする学生のための課題などを明示する必要があると考える。また、どう取り組めばよいかわからない学生がいるならば、なるべく早く気づけるよう、学生の様子を適切に把握しながら授業をすすめていくよう今後も努める。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	自分から課題に積極的に取り組む学生ほど当初の予想を上回る達成度に到達することができた。各自の課題とさらに発展的に学ぼうとする学生のための課題などを明示することによって、各自のモチベーションをさらに高めることができるよう努めていきたい。また、どう取り組めばよいかわからない学生がいるならば、なるべく早く気づけるよう、学生の様子を適切に把握しながら授業をすすめていくよう今後も努める。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅳ	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、8割以上の学生の動機がそれに該当する科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。保育技術に関する教授内容であるが、技術獲得のための課題は授業時間中だけでは実施困難であるため、基本的には次回授業時提出の形をとっていたが、授業評価の自由記述から「課題多い」という回答が多数あった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて1名を除いて全ての学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいても9割以上の学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であり、学習に際してシラバスの活用や図書館利用等は半数以上で確認され、多様なソースを活用した学びが一部学生ではなされていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の技術について教授し、授業外の学習時間で課題を行うという進め方であったが、それ故に授業評価アンケートでは「課題が多い」という意見があり、また一方でその進め方により授業外の復習の時間確保が成されていた。結果として、学生の目標到達や成績状も良好な結果であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。次の段階として、これ以降の授業で本授業で獲得した技術を発揮できる時間の確保ができればなお良いと考える。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。また、2度目の保育所実習ということで、1回目の実習を踏まえて、各個人について必要な保育技術についても事前に聞き取りを行い準備した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において全受講生が目標を達したと回答しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。また、実習後の保育所からの評価についても全学生とも標準以上の評価であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進化した。特に2回目の保育所実習であることから、高い保育技術を教授できるよう、全受講学生のニーズに個別に合わせ2名の教員で授業時間外にも個別に対応した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年次で、学生は現場実習も経験があるが、専門分化した実習であるため、実習前に当該実習先の特性等について準備ができるように指導した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	実習という場面での制約があること、臨床経験の不足から達成状況について十分だとは判断できない。学生の評価は実習先に多くを依存するが日誌の記述や報告会での整理の状況を勘案した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学内での学習を臨床現場で応用してみて、学生自らの学習への反省をもたらす機会でもある。個別指導や報告会での学生の状況を見ると妥当であったと考えられる。学生を個々に見ると過不足が生じていることは否めない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、当該年度の個々の学生の状況に依存するが概ね無理なく遂行できたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

受講学生数が変動するが、個々の学生の準備状況、モチベーションに合わせて、現場臨床実習を意義あるよう組み立てていきたい。

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、8割の学生の動機がそれに該当する。残りの2割については「関心のある内容」であるとなっているが、履修者全員資格取得を目指している。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記を踏まえ、保育士として勤務するに当たり必要となる実践的な知識・技術を演習形式でロールプレイを通して経験し、身に付けることが出来るよう、多様な演習内容を準備した。具体的には、5つの異なる演習の計画・実行・反省を通して、学修が進むように各担当教員で各自準備を進めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	5つの演習それぞれにおいて達成されなかった学生は一人しかおらず、追試において改めて目標達成の確認をした。その他の学生については、達成度自己評価においても「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が3.6、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が平均値3.7、その他の項目の平均値は3.8以上、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」では平均値4以上と、学生の目標達成度も高水準であった。とはいえ、1名追試となったことから、全体を通して「やや達成された」と評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、4年間のまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であると考えている。また、4年間の学習後に総合的に保育実践力を身に付ける科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業への取り組み、授業内のディスカッションの内容、各演習の実施、振り返り、成績評価を踏まえて、授業の進め方は概ね問題ない考える。
各演習課題の準備について準備時間が不足するという学生の意見については、準備時間は必要に応じて設けているにも関わらず、取り組みが遅く、直前で時間が足りていない様子が見受けられるため、準備期間中に継続的に課題に取り組むよう促し、適宜サポートする必要があると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、継続的な課題への取り組みの促しとサポートが必要であると考えている。

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ参加学生の総意を集約してテキストを中心に研究した。事前準備は多くは要求しなかった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して知識や思考など測定対象が不十分であり、客観的な指標は提示できない。卒後の進路として3年次ゼミでの学習を考慮して構えを形成することには繋がったのではと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門分化した内容であったが、学生の反応からすると妥当であったと考えられる。
--	---------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生から特に不満等は聞かれなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

毎年度ゼミ参加学生の意向踏まえて内容を検討しており、4年次では全員で研究内容を深める予定である。

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が、主体的に参加し、専門研究Ⅱにつながる授業にすべく準備した。
---	-----------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.75点であり、専門研究Ⅱに向けて各自の問題意識が芽生えてきたようである。北九州市において発生する、いじめや虐待事件について、ゼミ生と共に議論し検討した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP。カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、必修でもある。大学生活3年目になり、将来の自分が少しずつ見え始めた時期であり社会福祉士としてのレディネスを形成するうえで妥当であると考え。 ②DP。行動目標から見ての内容妥当性 成績評価から施行判断に関する達成度は、一定のレベルに達したと考える。従って、内容的には妥当であった。 ③まとめ 以上から、内容の妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生が、主体的に参加し、専門研究Ⅱにつながる授業にすべく準備した。

学生の意見では、「今年度はいろいろありがとうございました。来年度は、一緒にもっと頑張ろうね。」といった意見があり、4年次に向けての意欲がみられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

レポートの書き方において、やや未熟な点も見られたので、今後さらに指導を行っていきたい。

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、「関心のある内容である」ことが100%であり、動機が高いことが伺える。専門研究Ⅰの内容について、受講生は初めて接する状態であったことから、専門研究の概念説明から始め、徐々に、研究内容に親しみ、自ら研究し論文を書けるように指導する必要があった。そこで、最初は、テキストの基礎知識を提供する箇所を、共に精読し、互いに理解した限りを図解しあう方法をとった。専門研究Ⅰのこの段階は、基礎を積み重ねる時期である、という意識を受講生が持てるように工夫した。 ② 受講生の諸先輩の残した卒業論文を手にとらせ、先輩からの研究を引き継ぐという継承意識とそのアイデンティティの形成を留意した。 ③ 理解度の速度や程度は、様々であることを利点とする工夫を心掛けた。すなわち、互いに学んだことを表現しあい、説明しあう方法を採用した。これにより、自分の学んだことを確認し、また、他の受講生の異なる視点からの理解により、理解の幅と深みが生まれるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は、94.33点であり、到達度自己評価によると、「自分なりの目標を達成した」につき「わりにそう思う」が100%であった。学科では非専門の分野になる<知識><理解する視点や考え方>に関しては、どちらも「かなり」「わりに」が50%であった。<コミュニケーション・表現力>に関しても「わりに」が100%、<規範習得>に関しては「まあまあ」が100%であった。しかし、専門研究の内容が学科専門科目とは異なるにも拘わらず、専門分野の<課題を検討する力><専門分野の学びを深めたい意欲>に関しては、どちらも「わりに」「まあまあ」が50%であったし、<判断する力><技術を身につける>に関してもどちらも「まあまあ」が100%であった。つまり、専門研究Ⅰの研究の成果が受講生に肯定的に受け止められているといえよう。しかし<就職>に関しては「少しそう思わない」「まあまあ」がそれぞれ50%であるから、直結しないように受け取られている。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけにつき検討すると、専門研究Ⅰは、意味論から「人々の生」「人間関係」を通して「人への支援」を探求するものである。言い換えると、意味論からこれらを捉えて、実現するものである。その意味論を専門的に研究するものであるから、内容的に妥当であると考え。 ② DPの位置づけにつき検討すると、DPの項目のいずれにも、「全くそうでないと思う」というものはない。前項の欄に述べたように、「かなりそうだ」「わりにそうだ」「まあまあそうだ」という評価が圧倒的に多い。したがって、内容的に妥当であると考え。 ④ 以上から、内容的妥当性は認められる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	専門研究Ⅰでは、受講生に基礎概念が身に着くまでの間、教授指導型になりやすい。それでも<参加の機会>は「かなり」という評価が100%なされている。<質問を受け答える>ことでも「かなり」「わりに」がそれぞれ50%であった。今後、受講者が自主的に研究していくことになるのは、本格的には、専門研究Ⅱである。その予備的段階として、受講者の負担を現在より増やせる進め方を工夫したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	CPとDPとしては内容的妥当性を有している。受講生の「自分なりの目標を達成した」ことでは「わりに」が100%で、「かなり」とはなっていない。しかし、<知識><理解>に関しては「かなり」も50%であり「わりに」の50%だけに留まらないことは評価できる。ただし、<評価基準>につき、100%の受講生が「まあまあ」と受け止めている点は留意し、説明の明確化を図りたい。また、各自の研究に、指定図書が受講時に用いること以外には活用されていないので、今後は、指定図書の意味を説明し、より活用するように指導を工夫することが必要である。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究 I	3	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	何が問題となり、どのような方向性で社会が動こうとしているかについて、資料を基に考えさせるようにしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」項目の平均値は比較的高いもので、学生各自が習得できているものとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPの上では、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」項目が4.0と高い値で、「自分なりの目標を達成した」が3.8であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総じて、前期の実習を踏まえ、後期の実習へと積み上げる実習で、学生の成長がみられた。

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業を受講する学生のほとんどは、養護教諭や保育士・幼稚園教諭を希望している。 この授業では、主に定期的な運動がからだや心の健康にどのような影響を与えるかについてより詳しく説明すると同時に、運動やスポーツを実際に行うことで起こるからだの適応変化を捉えることによって、運動の重要性を再認識させるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は80.0(±8.2)点であった。成績分布別にみると、90点以上が29%、89～80点が42%、79～70点が29%であった。全員が標準的レベルに達しており、そのうち71%の学生が理想的レベルに達していた。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が14%、「わりにそうだと思う」が57%、「まあまあそうだと思う」が29%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9)。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「わりにそうだと思う」が43～100%、「まあまあそうだと思う」が57%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.4～4.0)。					
	「思考・判断(DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が14%、「わりにそうだと思う」が57%、「まあまあそうだと思う」が29～43%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.6～3.9)。					
	その他「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.9、3.7～4.3、4.0であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がからだや心の健康にどのような影響を与えるかについてより詳しく説明すると同時に、運動やスポーツを実際に行うことで起こるからだの適応変化を捉えることによって、運動の重要性を再認識させるようにした。すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.1であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、2.3回が57%、1回が43%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、2.3回が57%、1回が14%、0回が29%であった。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は71%であったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ選択の段階で、進め方・内容等の十分な周知を行った。またゼミ開始後も毎回、進める方針の確認や自己学習の内容・分量等について確認をした。受講動機は様々だが、多くは養護教諭を目指すという出口の目標を持っているので、そこにつなげるような工夫を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解は事前の客観的達成目標としては設定しておらず、学生の興味関心に基づき課題探求学習の形態をとった。知識理解はゼミの前提となる自己学習がやや不足しているように思われる。意欲関心・態度に関しては各自満足できる結果を見せた。ただし、養護教諭に求められる実践的場面での技能という点ではまだ不十分であったが、これはある意味当然のことだと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門研究Ⅱに向けた基盤作りの意味を持ち、各自の将来目標の具体化と学習の進捗を同時に行うという意味で内容的妥当性があると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

前期はゼミでの人間関係作り、学習方法と内容の確認が中心となった。上級生の養護実習・採用試験との兼ね合いで、じっくりとゼミを進めることが難しかった。ただ、先輩の学習姿勢を手本として3年生の意識が高まり、ゼミ本来の活動へと入っていくことができたようだ。
後期は卒業生が養護教諭として勤務する職場を訪問し、その後ゼミ活動の一環として現場で使える保健指導教材を作成するなど実践的かつ将来への動機付けを意識した学習を進めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

意欲態度に関しては十分満足できるが、主体的学修という観点からはこれから指導を充実していかなばならない。特に個人の特性によってどのような養護教諭へと成長していくのかという観点からのゼミ運営が大切だと感じている。
ゼミや試験を控えて不安が高まる中、積極的に学ぶ経験を提供できるゼミであるよう努力したい。

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野(精神保健福祉領域)に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」のテーマの選定が行えるよう、アドバイスをを行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学術データベースの利用に関しても殆どなされてない状況であるので、次年度の卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを早急に検討したい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、指導を行いたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①ゼミ生の研究力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表・討議などの基本が学べるようにプロセスを考え、それを重視した。授業では全員で学び合うことを重視した。 ②ゼミ生には、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、北九州市小児口腔保健学会等への参加機会を設けた。 ③希望者には長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を奨励し、学生の自主性を尊重しながら対応についての指導・助言を行いフォローに努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88.3(±4.1)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルとともに理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)も達成した。 履修者の意見として、学習到達度の自己評価については、知識理解、思考判断、意欲関心、技能表現などの平均値3.6～4.2で高い評価となっており、また、授業の質についても89.9～100%(3.2～4.0)と高い数値での評価結果であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、専門科目であり、必修である。研究の力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表・討議などの基本が学べるようにプロセスを考え、それを重視した。履修生が優秀な成績を修めていることから、内容的には妥当であったと思われる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 定期試験、課題学習、レポート等の成績評価から知識理解・思考判断・意欲関心・技能表現・態度等すべてにおいて高い結果であったことから、内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	課題を事前に提示し、履修者の準備時間を確保することで活発な議論ができた。また、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、学会等への参加機会を設けるとともに、文献の読み方、レポートの作成さらに発表・討議などの研究の基本的な技能の修得を目指して指導を行った。 履修者の「授業の質」については3.2～4.0の評価結果であった。意見では「論文を読んだ」「関連するところを教科書やインターネットで調べた」「復習を行った」など自主的な学習活動が促進されていると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業過程を振り返ってみたとき、様々な視点から課題を分析考察することができたと考える。履修者の視点及び成績評価等から見ても概ね達成できたと考える。次年度はより良い授業を目指していきたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2015年度は、ゼミ指定の文献を各ゼミ生が講読し、報告して議論する、という方式をとった。発言を通じて、ゼミ生が議論に積極的に参加することを促すように努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価は全項目が4.6以上であった。学習量の評価についても、準備を行った回数を3～6回としている学生が多いことから、報告担当回については、ある程度準備をしてきていたといえる。ただ、図書館や学術データベースの利用率が低いので、もう少し深みのある報告準備が望まれる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	そもそも学生は2年次に担当教員との面談を経て受講をしていることから、ゼミのテーマや具体的な内容を十分理解した上でゼミに臨んでいる。また、上記の通り、到達度自己評価は全項目が4.6以上であったことから、内容的には妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は全項目4.9以上であった。ただ、報告準備のための学生の図書館・データベースの利用が少ないため、1年次から図書館等の利用方法についての指導の充実が望まれる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

上記の記述より、すべてのDPは達成されていると考える。今後もさらに充実したゼミを目指したいと考える。

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前半はソーシャルワークの理解を深めて、人と関わることについて考えることができるようにプログラムをしている。後半は、相談者に出会う場面を想像し、ソーシャルワーカーは支援にあたってどのような情報が必要であり、どのように面接していくことが求められるのかを考えていくロールプレイを行っている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業外の学習についてしている学生がおらず、時間内に与えられた中に限られている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次の専門研究の位置づけとしては、3年間の学びを通した知識と技術をどのように結び付けたいのか、事例について考える中で気づくことができることを目指して設定している。内容的妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の課題以外に学習に取り組んだ学生が1名であり、図書館利用についてもほとんど全員が利用していないと回答している。次回以降は、より課題設定を工夫して、学生の自己学習の動機づけができるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

漠然としているソーシャルワークの知識や技術をつなぎ、より職業意識を高めて将来につなげていくことができるように、課題を設定する機会をより多く設けて、事前事後の自己学習への動機づけができるようにしていきたいと思う。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	8名のゼミ生のうち、4名は再履修科目が複数科目ある学生であり、一方で自身の目標に向かってコツコツと努力し続けることをこれまで続けてきた学生が4名であり、学生準備性には大きな隔たりがあるメンバーであった。この隔たりがモチベーションを下げたり、自信をなくしたりすることにつながらないように、それぞれの状態に応じた課題を提示し、それぞれが努力しながら前進していることを認め合えるような状況を作り出せるよう努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ゼミにおいては与えられた課題をこなすことにとどまらず、自身の関心と課題を明確にし、それを探究するための方法を模索することを目標とした。最終的には卒業研究としてまとめる途上であるため、現在は到達していない段階であるが、3年次の終了時点として、それぞれが取り組むべき課題とその方法を明確にできたという点において、目標とするところに到達できたものと評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価より、「知識理解」「思考判断」「意欲関心」「態度」「技能表現」それぞれ到達できたものと評価できる。内容的に妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

それぞれの進度に応じて、さらにそれを前進させるだけの助言や課題の提示が十分であったならば、学習量がさらに向上するなどよりよい結果が得られたのではないかと考える。各自が設定するテーマについて、教員自身がさらに情報収集を行って学習環境をより高めることが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

各自の関心を引き出し、自己で課題解決に向けて工夫し行動することを可能にするため、学生自身の力を引き出しつつ自分の力で取り組むことを阻害しないような工夫を今後も模索していきたい。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門研究Ⅰでは、次年度に控えている専門研究Ⅱで作成する専門研究、もしくは卒業論文のために必要となる知識である「社会科学分野における調査系論文の読み方」に関する教科書を講読した。今年度の履修者は前年度までに「統計学」を学んだことがない者で構成されていたため、各自担当箇所のレジュメを作成し、発表させていく中で内容の理解が十分でない場合には教員が積極的に解説を行い、実習を行う(仮想データを提示して計算をさせる等)事で、学修準備性の低さを補う努力をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成されなかった	達成された	達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価は3.0－4.0と概ね高かった。また到達度評価の中で比較的评价が低かったのは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」等であった(ともに3.0)が、授業の内容が研究方法に関するものであったため、福祉職を目指す学生にとって直接的に関連している内容とは受け取りにくかったものと思われる。ただし、履修者全員が真面目に課題に取り組んでおり、知識が増えていく事や分析的に文章を読むことを意識し始めるなど一定の成果は見られたものと理解している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本ゼミでは学科のDPの中でもDP1に力を入れた内容となっている。また学科のCPのうち7の「自らの課題を設定し探究する姿勢を身に着けるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う」に該当すると考える。学生は、対人援助の技術等を直接的に学ぶ内容になっていないことを理解した上で本ゼミを志望してきているため取組みの姿勢も良好であり、到達度の自己評価も比較的高かったと考えられ、方法的にも妥当であったと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」等が低めに評価されていた(ともに3.0)。学科のDP全体と直接的に結びついていると実感させるには至っていないため、ここで得た知識が将来的にどのように活かされていくのかについて、積極的に伝えていく努力が必要であろう。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の学習態度や自己評価は概ね良好であったと理解している。しかし前述のように、「福祉専門職の知識と技術」を直接取り扱うような内容の授業ではなく、新たな知識・技術を先行研究から見出し、検証するための基礎知識を身に着ける事が目的となっているため、学生の中にとってはDPと授業内容とのつながりを実感しにくくなっていた可能性がある。こうした先行研究を理解するための知識が、将来的にどのように役立ってくるのかについて、積極的に説明していく必要があると考えられる。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目においては、学生の興味・関心を十分に踏まえたゼミ指導を意識している。しかし、学生各人が興味・関心を持つ領域やテーマにばらつきがあったため、最初にゼミ全体として取り扱う研究テーマ(大枠)を設定した。その上で個別にテーマを与えた。ゼミ運営や学生指導においては、学生同士の相互交流が深まることで学生個々の学習意欲や主体的学習態度が高まるよう意識した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について学生の授業評価アンケートにおける到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそう思う50.0%、かなりそう思う50.0%)であり、教育目標が達成されたと考える。「思考判断」(DP2)は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う75.0%、かなりそうだと思う25.0%)となっており、達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う75.0%、かなりそうだと思う25.0%)であり、目標を達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う75.0%、かなりそうだと思う25.0%)となっており、目標を達成したと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う50.0%、かなりそう思う50.0%)であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそう思う」(25.0%)、「かなりそう思う」(75.0%)となっていることから目標を達成できたと言える。 本科目の受講者は4名であり、回答数(母数)は少ないものの、本科目における教育目標は全体的に達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、すべてのDP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 学生の将来の進路選択や学問的関心を深めるという時期からも、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量では、「1回30分程度以上の準備」について「1回」(50.0%)、「2回」(50.0%)となっており、「1回30分程度の復習」は「0回」(25.0%)、「1回」(75.0%)となっている。また、「授業の課題以外の学習への取り組み」は「していない」(100%)となっている。以上の結果から、学生の学問的関心を踏まえた指導を意識し、ゼミ運営を行っていたものの、実際には学生の主体的な学習態度や行動にはつながっていない現状が明らかとなった。今後の課題とした。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記で述べた通り、各DP項目における教育目標については、学生の到達度自己評価から達成できたと考える。一方で、本科目を通して学生の主体的学習態度や行動を引き出すことはできなかった。今後は学生の興味・関心を的確に把握するとともに、学生自らがそれらを深めていく学習態度を身につけることができるよう指導やゼミ運営を工夫したい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前年度に提出された希望ゼミ調査票と面接の結果を基に、全受講学生の共通の関心を導入の題材として、事前の準備を行った。授業評価アンケートの自由記述でも見られたが、他の課題等で時間がなく、準備や復習が十分でない学生も散見された。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」は概ね高く、学生の自己評価としては、学習目標が達成されたと考える。成績評価も全受講生が8割以上の成績であり、良好な結果であったと考える。復習時間や図書館の利用等で学生個人に差がみられたが、8名という少人数のため、個別の指導は可能であった。今後は、学生の自主的な学習活動にまで結びつくような指導が必要であるとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業のための必須科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

前述の通り、学生間で自学の量と質に差があったと考える。一律の課題提示ではなく、個別の課題設定や、図書館、インターネットの利用をさらに誘発するような課題提示が必要であると考ええる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

概ね授業の目的は達成できたと考ええる。課題としては、少人数故に浮き彫りになる学生間の学力差や、自学の質に対する対応であると考えている。授業としての目標提示に加え、個人の目標設定を取り入れる必要があると考ええる。

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」が87.5%、「関心のある内容である」「単位数を確保する」「その他」がそれぞれ12.5であった。学生によって、関心のあるテーマが異なるため、主体的に学べるように、学ぶテーマを学生自身が考える機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試験対象者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上に達した。到達自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の3項目については、平均点が4点以上であった。また、図書館を利用した学生も多かった。これらのことから、関心意欲は「達成された」と判断し、他の項目は「やや達成された」と考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門研究科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DP1における本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目の受講動機は「必須科目である」が87.5%であった。しかしながら、到達度自己評価をみると、「意欲関心 (DP3)」は教育目標を達成されたと考えられ、また他の項目も「やや達成された」と考えられることから、DP1における内容は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均点は4点であり、他の項目も3.9点であった。これらのことから、自ら考える時間を設けると同時にグループで意見交換をする機会を設けることが重要であると考えらえる。今後もそれらの時間を確保し、学生が関心をもち、主体的に学べるテーマ設定をしていく。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	すべての学生が標準以上に達したと考えられる。しかしながら、予復習の時間が少なかったことから、今後は、学生が予復習に取り組みやすいように、具体的な課題を提示するようにする。
------------------------------	--

2223201

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

4年生では、3年次からの流れで研究のまとめを行った。北九州市の障害児福祉発展の歴史資料の研究であったため、現代的な知識や技術的側面には関連しないが、4人の学生が協働してまとめることができた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	社会福祉士国家試験を受験した2名については両名とも合格した。養護教諭を目指していた学も障害児福祉の進展について今日的な状況が生まれてきた過程を理解することができたとしている。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

就職先の専門性とも関連する内容で、臨床現場での応用が期待できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

ゼミ参加学生の意向を重視し取り組んだ。資料は教員が準備したが、進め方については学生の判断に任せてまとめられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

4年生の専門ゼミとしては、学生の意向を重視し検討しており、概ね満足がいくものと考えられる。

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門研究レポートを作成するため各自のテーマを明確にするよう準備を行った。 社会福祉士国家試験受験のための対策講座を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、76.67点であり、全員卒業することができた。理想的レベル(おおむね80点以上)に達した者は、6名中3名であった。各自が、研究レポートのテーマを設定し、調査・研究を行い提出することができた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、必修である。専門研究レポートを作成することで、大学生活の総括を各自が行うことができたと考えことから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 各自、福祉専門職としての自覚ができ、全員就職をすることができたことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

現在の社会において発生する、様々な福祉問題について、学生と議論し検討を行った。

学生からは、「学生の疑問点等にこたえてくれたり(わかりやすく)担当分野だけでなく社会のことや政治のことなども教えてくれました。」といった意見が寄せられていた。社会人になるための、幅広い知識を持てるように指導していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生は、真面目に研究テーマに取り組んだが、掘り下げが足りないところがあった。これからも、さらに深く考えることができる教育を行っていきたいと考えている。

学科	福祉学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミの出発に当たり、下記を明確に示して取り組んだ。 ・積極的、計画的に課題をこなしていく(必須の課題を提示する) ・協力すべきこと、助けるべきことを厭わない ・労う ・ゼミの時間は必ず集まる
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成されなかった	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メンバーの最終的な成果は下記の通りである。 1. 卒論 1件(卒論発表会には出席しなかったため、卒論としては認定せず、ゼミ論として本ゼミの単位を認定) 2. ゼミ論 6件 発達障害のある小学生・中学生の養護教諭の支援 小学生・中学生の不定愁訴の背景と養護教諭に求められる対応 統合失調症の社会生活機能に対する知能の影響 緩和ケアにおけるMSWの役割 医療保育における遊びについて 保育所の中で、親とのつながりをどうつくっていくか ～ 支え合う親のつながりについて 各自の課題を達成したという点ではDP1、DP2はやや達成と評価できるが、ゼミのまとまりを作り上げていく点でDP4、DP5には課題が残ったと評価せざるを得ない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	問題はない。
--	--------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ生7名中卒論を書かない6名はゼミレポートの作成を行った。原則として3年時より暖めてきたテーマを深めていったが、4年次に新たなテーマをたてて取り組んだ場合もあった。 ゼミへの出席状況に課題のある学生が複数おり、ゼミ生同士による連絡やサポートなども行われたが、応答が乏しいままに進んでいった点が一番の反省点である。卒論を書いた学生もその傾向がつよく、卒論は提出したものの卒論発表会を欠席したため単位認定できなかった。 ゼミは、相互に影響しあい、支援しあう過程といえるが、3年生がいないことからくる緊張感の欠如、国家試験や就職活動など、ゼミの中心となる学生達にも支援し合う余裕がなくなっていることも影響していたように思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全般にゼミとしての到達度の低い学年となった。出発点である3年次に実施すべきことを再度見直していくことから始めたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、「資格取得に必須である」ことと「関心のある内容である」ことが100%であり、動機が高いことが伺える。専門研究Ⅱの内容では、専門研究Ⅰで学んだ諸概念を前提に、受講生が自分の研究テーマを見出し、徐々に自ら資料を集め、テーマとする研究内容に親しみ、問題を深めてさらに新たな問題を提起し、自ら新たなテーマの研究をし、それを繰り返しながら論文を書けるように指導することを務めた。 ② 専門研究Ⅱの諸先輩の残した卒業論文の内、受講者の研究テーマと関連するものを取り上げ、先輩からの研究を引き継ぐべきものは引き継ぎ、発展させるものは発展させる、という意味での継承的意識の育成に留意した。 ③ 当然であるが、受講者の主体性を第一とし、その研究内容の新たな問題の所在を見出し、テーマを拡大あるいは深化することができるように指導した。 ④ 受講者が研究の方法論と研究論文執筆の方法論を身に着けることができるように指導した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は、95点であり、到達度自己評価によると、「自分なりの目標を達成した」ことにつき「わりにそう思う」が100%であった。学科としての専門に対して非専門分野の＜知識＞＜理解する視点や考え方＞に関しては、どちらも「かなり」が100%であった。また専門分野に関する＜意欲＞も、「かなり」が100%であった。＜コミュニケーション・表現力＞＜規範習得＞＜職業選択＞に関してはすべて「わりに」が100%であった。その他の項目、すなわち、学科としての専門科目の分野の＜課題を検討する力＞＜判断する力＞＜技術を身につける＞に関しては、すべて「わりに」が100%であった。受講者は、図書館の利用と図書館から利用できるデータベースの検索利用、授業でのネット利用のすべてを活用した。さらに、自らのノートを活用し、これらにつき指導したことをすべて実践した。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけにつき検討すると、専門研究Ⅱは、意味論から「人々の生」「人間関係」を通して「人人への支援」を探索するものである。言い換えると、意味論からこれらを捉えて、実現するものである。その意味論を専門的に研究するものであるから、内容的に妥当であると考え ② DPの位置づけから検討すると、DPの項目のいずれにも、「全くそうでないと思う」というものは皆無である。前項の欄に述べたように、「かなりそうだ」「わりにそうだ」「まあまあそうだ」という評価が圧倒的に多い。したがって、内容的に妥当であると考え。 ③ 以上から、内容的妥当性は認められる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	専門研究Ⅱでは、受講生が専門研究Ⅰで関心を持った事柄から自分の研究テーマが見出せるように工夫した。具体的には、テーマの探求のために図書館のどこにどのような書籍群があるのか、どの本のどの箇所を読むべきかを、素早く見つける技術を指導することを心掛け、資料探しに欠かせない実践的内容を盛り込んだ。さらに、その資料の収集の際、スマートフォンやカメラを用いることができるように指導した。「資料からテーマにそった論文へ」という執筆の指導に当たり、受講生の主体性を尊重し、アドバイスの指導を心掛けた。研究の課題は、受講生が自分の研究テーマの研究を進める段階で、自ら見出すことができるように指導した。また、テーマに対し、これまで専門研究で学んだ研究成果を生かすことができるように指導した。ただ、マンツーマン方式であったので、今後は、グループでの研究ができるような体制作りが必要であると考ええる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	先に述べたように、CPとDPとしては内容的妥当性を有していると考ええる。受講生の「自分なりの目標を達成した」ことでは「わりに」が100%で、「かなり」とはなっていない。しかし、4. (2)で既述したように、受講生は、指導したことを実践し、図書館の利用も十分に行い、自作ノートも活用したことは、専門研究が知識や技術の伝達に留まらず、研究の方法論が身につくように指導した結果であると考ええる。また、＜知識＞＜理解＞に関する指導については、「かなり」が100%であり評価できる。ただし、＜評価基準＞につき、「まあまあ」と100%の受講生が受け止めている点は留意し、今後は評価基準の説明の明確化を図りたい。その他は、6で述べたとおりである。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年次の専門研究Ⅰから継続し、学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果を各自がまとめる取り組みをした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	直接に面談し、学生各自からの質問に応え、研究レポートの内容を繰り返し書き改めるプロセスをとり、学生各自の整理と内容の理解を深めることが出来たと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生がほとんどであったことは評価できる。また、「専門分野のさまざまな課題を検討することが出来た」と評価している点も成果として考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

卒業研究のテーマは多彩であった。専門職に就いた者、一般に就職した者といったが、指導領域において3名の社会福祉士国家試験に合格し、医療機関に就職することもできたことは学生の努力の成果だと考える。

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.0(±5.0)点であった。成績分布別にみると、89～80点が3名中2名、79～70点が2名であった。3名全員が標準的レベルに達しており、2名の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、すべての学生が「わりにそうだと思う」と答えていた(平均値4.0)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、すべての学生が「かなりそうだと思う」、「わりにそうだと思う」と答えており、肯定的に捉えていた(平均値3.7～5.0)。 「思考・判断(DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、すべての学生が「かなりそうだと思う」、「わりにそうだと思う」と答えており、肯定的に捉えていた(平均値4.3～4.7)。 その他「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ5.0、3.7～4.7、3.7であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに学生各自が設定したテーマに沿って調べ、その内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。 すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という質問項目で「わりにそうだと思う」が3名中1名、「すこしそうでない」、「全くそうでないと思う」がそれぞれ1名（平均値2.3）であった。評価方法については口頭で知らせただけであったので、十分に伝わっていなかったと思われる。次年度より、より具体的に示す必要がある。その他の質評価の項目については、平均値が3.3～4.7であり、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生は、6回が3名中1名、4.5回が1名、1回が1名であった。また、1回30分程度以上の復習を行った学生は、4.5回が3名中1名、2.3回が1名、1回が1名であった。授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は3名中1名いた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。
------------------------------	---

2223208

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	はい	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

①3年次の専門研究Ⅰにおいて卒業論文の作成を目指して準備を進めてきた。各自が卒業論文のテーマを決めて専門研究Ⅱに臨んだ。②各自で設定したテーマに関する論文、資料を探す中で、毎回の授業(ゼミ)の中では、輪番で1つの資料を紹介してもらい、これについて議論する中で理解を深めた。③諸々の事情から卒業論文作成を断念した学生は、その内容(到達点)を卒業論文に準ずるものとした。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

第1回目講義の際に、1年間の実施計画を提示し、学生とともに確認した。①各自で設定したテーマに関する論文作成のために、資料を収集し、毎回の授業(ゼミ)の中で資料について議論を深めることが出来た。②収集した資料を基にして論文作成に真剣に取り組み、まとめあげることが出来た。③df諸々の事情から卒業論文作成を断念した学生では、その内容(到達点)は卒業論文には親ばないものの、専門研究Ⅱとしては到達目標は達成できたと考える。④これらは、到達自己評価、学習量の自己評価、情報利用や図書館利用の自己評価においてほとんどの学生が肯定的評価を行っていることと符合する。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

4. で述べたとおりである。

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	特になし。 学生からは、「卒業論文作成のアドバイス、国家試験の勉強に役立った」「ゼミで様々なことをまなべてよかった」と肯定的評価をしている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況は満足できるものであったと考える。 しかしながら、以下のことを危惧している。必須科目である専門研究Ⅱに関する到達目標(達成基準)が曖昧(何も示されていない)で学科内での共通認識が無く、すべては担当教員の裁量に委ねられている。専門研究は、学生生活終盤に唯一個人指導ができる貴重な授業時間である。学生は、とすれば楽な方に流されがちであり、近年、学科生全体のレベル低下が進んでいるように感じている。 到達目標(達成基準)の目安として最低基準が明記されている卒業論文に準じたものを掲げることを提案したい。 ちなみに、卒業論文作成を希望しなかった学生には、卒業論文の1/2程度の質・量を最低到達目標(達成基準)として指導した。

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ゼミ選択の段階で、進め方・内容等の十分な周知を行った。またゼミ開始後も毎回、進める方針の確認や自己学習の内容・分量等について確認をした。 受講動機は様々だが、多くは養護教諭を目指すという出口の目標を持っているので、そこにつなげるような工夫を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	全員規定の授業時数以上の学習を行っており、全ての領域においてある程度満足できる成果が見られた。 知識理解は事前の客観的達成目標としては設定しておらず、学生の興味関心に基づく課題探求学習の形態をとった。思考判断・意欲関心・態度に関してもそれに伴って満足できる結果を見せた。ただし、共同作業における思考判断、教材開発や授業実践という養護教諭に求められる実践的場面での技能という点ではまだ不十分であったが、これはある意味当然のことだと考える。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉学科のカリキュラムにおいて、各自の将来目標と運動した集大成であり、統合的役割を果たしたと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期は養護実習・採用試験との兼ね合いで、じっくりとゼミを進めることが難しかった。ただ、学生自身は多忙の中で、自分のテーマを深めたり、実習や採用試験の場で学習成果を発揮することがある程度できたという実感も持てたようだ。勉強のための勉強ではなく、各自の目標達成に向けて生かすことができるという自信は後期の支えになっている。 後期は試験後の空白期間となりがちだが、学生は真面目にゼミに取り組んでいた。卒業後の学習につなげるための準備という観点から後期ゼミは運営しているので、ある種の貪欲さが生まれたように思う。 知識や技能というよりも、教員としての資質能力の観点から自己省察を深め、自分の課題を乗り越えるというサポートを一層充実させたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一学年上のゼミの先輩が卒業してからしばらくは不安そうであったが、やがて最上級生の自覚を持ち、自分から積極的に学習に取り組むようになった。少人数であったこともおそくプラスに働き、後輩を引っ張る姿も見られた。卒業後の学習や職場に関する相談も継続しており、上下の学年も含めたゼミ後の指導も充実させていきたい。
------------------------------	--

2223210

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科				
氏名	今村 浩司				

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野(精神保健福祉領域)に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ論をまとめるために、学術データベースの利用に関して指導をおこなったのであるが、あまり利用がなされていない状況であるので、次年度からは、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを早急に検討したい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取ることが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、指導を行いたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全受講生が、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格をして、年内に就職が決定した。
------------------------------	--

2223211

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
＜授業評価の指標＞
「学修準備性」、自由記述の意見など

①専門研究Ⅱでは、論文作成を目指して指導を行った。コミュニケーションを図りながらゼミ生の自主性を重んじ、ゼミ生の意欲向上と達成感が得られるように努めた。
②研究力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成、研究の仕方などをワークシートを活用して指導した。
③卒業生との交流会、児童館でのふれあい体験ボランティア、研究会や教育セミナーなどの参加機会を設けた。 履修者各々養護教諭になりたい等の意欲が高まったと考える。
④さらに採用試験対策として面接、発表、討議などの学習を重視した。授業では全員で学び合うことを重視した。
⑤希望者には長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を奨励し、学生の自主性を尊重しながら対応についての指導・助言を行いフォローに努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.4(±5.9)点であり、再試対象者は0名であった。標準的レベル到達が4名理想的レベルの達成が8名であった。論文作成を指導してきた。コミュニケーションを図りながらゼミ生の自主性を重んじ、ゼミ生の意欲向上と達成感が得られるように努めた。研究を進めるプロセスにおいて、消極的な取り組みの履修者がみられたので、なお一層丁寧な指導に努めた。履修者の意見として、学習到達度の自己評価については、知識理解、思考判断、意欲関心、技能表現などの平均値2.9 ～3.5であるが、かなり個人差のばらつきがあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

＜授業評価の指標＞
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は、専門科目であり、必修である。研究の力をつける為に、文献の読み方、研究の進め方、レポートの作成さらに発表・討議などにおいて、計画的に進めたことから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当であったと考える。
②DP、行動目標からみての内容的妥当性
課題学習、レポート研究論文作成等の成績評価から内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	履修者の意見として、学習量について「課題途中で見つけた別の資料などを研究した」などの取り組みを行っている履修者がいる中で、「就職活動に忙しかったため」授業の課題も十分にできなかった履修者もいた。 出席率の悪い履修者をどのように指導するかが今後の課題と捉え、次年度に改善を図りたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業過程を振り返ってみたとき、履修者の視点及び成績評価等様々な視点から課題を指導し、概ね達成できたと考える。 しかし、研究の進め方については履修者が取り組みに苦勞する状況であり、とりわけ採用試験後の後期においては学習意欲が低下する履修者が見受けられ、指導に苦慮した。これについては様々な要因が考えられるので、しっかり分析して、その指導について今後改善を図っていききたい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	内容は国家試験対策と卒業研究作成が中心であった。国家試験対策は学生の意向を重視して準備を行った。卒業研究作成については、学生の進捗状況に合わせて適宜助言や文献の紹介を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価は概ね3.5-3.8であった。「自分が学ぼうとする専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.0であった。一方、「自分なりの目標を達成した」が3.3、「職業選択の参考になった」3.0とやや低い。学習量の評価については、準備を行った回数を0回としている学生が多い一方で、図書館や学術データベースの利用率が高い。これは卒業研究の作成には図書館の文献を利用した一方で、国家試験対策については特に準備していないということであると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	そもそも学生は2年次に担当教員との面談を経て受講をしていることから、ゼミのテーマや具体的な内容を十分理解した上でゼミに臨んでいる。内容的には妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は全項目3.3-3.8であった。「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のみ3.3であったが、これについては、学生から質問等を促したものの、リアクションが少なく、全体的に学生の姿勢がやや消極的だったことが大きい。また、報告準備のための学生の図書館・データベースの利用が少ないため、1年次から図書館等の利用方法についての指導の充実が望まれる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記の記述より、すべてのDPはおおむね達成されていると考える。今後もさらに充実したゼミを目指したいと考える。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門研究Ⅱは、4年生で社会に出る前の最終学年であることから、卒後の職業人としての活動を意識しながら、ソーシャルワーク技術に関する内容を含めて行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価において、少しそうではないと思うと回答した部分があった(知識の確認や修正、事象を理解する視点や考え方を得る、的確に判断する力を得る、職業選択の参考)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	最終年次の専門研究の位置づけとしては、4年間の学びを通じた知識と技術を統括しながら、事例について考え、援助計画を立てていく技術の修得を目指して設定している。内容的妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の到達度自己評価において、少しそうではないと思うと回答した部分があった(知識の確認や修正、事象を理解する視点や考え方を得る、的確に判断する力を得る、職業選択の参考)。この部分については、次回以降より機会を増やして行っていこうと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

漠然としているソーシャルワークの知識や技術をつなぎ、より職業意識を高めて将来につなげていくことができるように、課題を設定する機会をより多く設けて、事前事後の自己学習への動機づけができるようにしていきたいと思う。

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	11名のゼミ生のうち、6名は再履修科目が複数科目ある学生であり、一方で自身の目標に向かってコツコツと努力し続けることをこれまで続けてきた学生が3名いるという状況であり、がくせいの学習準備性には大きな隔たりがあるメンバーであった。この隔たりがモチベーションを下げたり、自信をなくしたりすることにつながらないよう、努めたが、相互作用の結果として、ゼミ全体がやる気を低下させる方向に向かうことを数回経験した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上記のような状況の中、自分自身のペースで課題を達成できる学生は確実に目標達成できたが、それ以外の学生はかなり困難な状況であった。最終的に卒業研究を各自がそれぞれまとめることができたが、当初の到達目標に十分到達できたと言えるのは半分の学生にとどまったため、「やや達成」にとどまる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的には妥当であると考えてるが、各自の課題達成のためのサポートとゼミ生同士の関係性からくる学習への動機づけをどれだけ引き出すことができるか、活用することができるかが課題である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各自の課題達成のために助言や課題提示など教員からのサポートをより強化すること、ゼミ生同士の関係性からくる学習への動機づけをどれだけ引き出すことができるか、活用することができるかが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

各自の関心を引き出し、自己で課題解決に向けて工夫し行動することを可能にするため、学生自身の力を引き出しつつ自分の力で取り組むことを阻害しないような工夫を今後も模索していきたい。

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の目的は、学生の興味・関心のある領域について研究を行っていくことである。履修者は3年次に「調査系研究の読み方」を学んでいるため関心のある領域の文献について批判的に読む力は、受講段階において有しているものと考えられる。その上で先行研究を講読し、自分なりの論を展開していく事に重点を置いて指導を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価については3.0－4.3と概ね高い数値を示していた。しかし学生による学習量の自己評価と教員が判断する学習量との間にかい離が見られたと判断している。4年次開講という事もあり、国家試験の勉強や就職活動など同時並行で複数課題を行うことに困難さを抱え、結果として専門研究に時間をかける比重が非常に低くなってしまったところは残念であった。締め切り間際になってから急いで取りかかる者が多かったことから、熟考した上での論理展開に至っていなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉学もしくは心理学の研究を行うという意味では、本学科のCP,DPと合致しており、内容的には妥当であると考えられる。ただし、学生の本科目に対する取り組み姿勢等を鑑みると、方法的に妥当とは言えなかったと考えられる。自由記述の中にも「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」について「国試の勉強のため」と書いている学生がおり、本科目に積極的に取り組むには精神的・時間的な余裕のなさがうかがえた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

複数課題を行う中で生じる不安に対応することが多くなり、ゼミの中で学習する機会が減少してしまったことが、課題が十分に達成されなかった要因の一つとなっているように思われる。今後はゼミはあくまでも学習時間であることを自覚させ、個人的な相談については別の時間に対応することを伝えていく必要があると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

4年次開講の科目であり国家試験の勉強、就職活動と同時並行で研究を行わなければならなかったため、学生が十分に課題に取り組む時間を割いていなかったように思われる。これは教員が本科目の目的や位置づけを十分に周知しなかったことも原因の一つとして考えられる。今後は学生が研究を進めるため時間を割くように、短期目標(とその期限)を設定していく必要があろう。

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では福祉学科4年間における学習成果の1つとして国家試験を位置づけ、ゼミ指導を行った。具体的には、学生各人の研究テーマについて国家試験の出題範囲に関する内容を設定した。ゼミ指導においては、各人とのコミュニケーションを十分に図るとともに、学生同士の相互交流を通じて学習意欲や主体性が高まるよう努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について学生の授業評価アンケートにおける到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそう思う40.0%、かなりそう思う60.0%)であり、教育目標が達成されたと考える。「思考判断」(DP2)は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う40.0%、かなりそうだと思う60.0%)となっており、達成できたと言える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う60.0%、かなりそうだと思う40.0%)であり、目標を達成できたと言える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う60.0%、かなりそうだと思う40.0%)となっており、目標を達成したと言える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う80.0%、かなりそう思う20.0%)であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」(20.0%)、「かなりそう思う」(60.0%)となっていることから目標を達成できたと言える。 本科目の受講者は5名であり、回答数(母数)は少ないものの、本科目における教育目標は全体的に達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、すべてのDP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉学科4年間における学習成果の集大成として各自が研究テーマに取り組むものであり、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価アンケートでの学生の学習量では、「1回30分程度以上の準備」について「4・5回」(40.0%)、「6回」(40.0%)が示された。また、「授業の課題以外の学習への取り組み」は「取り組んだ」(60.0%)となっている。図書館の利用についても授業を通して図書・雑誌を利用した割合は80%となっている。以上の結果から本科目の指導を通して、学生の主体的・自発的な学習態度をある程度引き出すことができたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

既述の通り、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から、各DP項目の教育目標は達成できたと考える。また、学習量や図書館利用の結果からも、本科目を通じて学生の主体的・自発的な学習態度をある程度引き出すことができたと考える。これらの成果を継続できるようゼミ指導に取り組んでいきたい。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	はい	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門研究Ⅰの継続として、前年度の各個人の課題を把握し、個に即した課題を準備した。個別の指導に加え、授業外学習の必要性が増すため、他の課題と時期が重ならないよう配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」は概ね高く、学生の自己評価としては、学習目標が達成されたと考える。成績評価も全受講生が8割以上の成績であり、良好な結果であったと考える。学習量や図書館、インターネットの利用も充分になされており、各学生が課題意識をもって臨んだと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業のための必須科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各個人が研究課題を明確にもって臨んでいたため、個々に対して必要な課題提示を行った。

「授業の質の評価」や「学習量の評価」「図書館、インターネット利用」についても課題提示の際に誘発されるよう組んだため、それを反映した結果となっている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合的に授業目的は概ね達成できたと考える。他の授業との兼ね合いから、極端に課題が重なる時期があったことから、他の授業も含めた学生の利用可能時間の年間を通した均一化が必要であると考ええる。

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必須である」14.3%であった。学生によって、関心のあるテーマが異なるため、教員と学生で話し合う機会を設け、専門研究Ⅱで取り組む内容について検討した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再試験対象者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上に達した。到達自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の2項目については、平均点が3.9点であった。また、図書館を利用した学生も多かった。これらのことから、知識理解 (DP1) および意欲関心 (DP3)は「達成された」、他の項目は「やや達成された」と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目は、カリキュラムマップにおける専門研究科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性:本科目の受講動機は「必須科目である」が100%であった。しかしながら、到達度自己評価をみると、「知識理解 (DP1)」「意欲関心 (DP3)」は教育目標を達成されたと考えられ、また他の項目も「やや達成された」と考えられることから、内容は妥当であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らかであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均点は4点以上であり、他の項目も3.9点であった。これらのことから、自ら考える時間を設けると同時にグループで意見交換をする機会を設けることが重要であると考えられる。今後もそれらの時間を確保し、学生が関心をもち、主体的に学べるテーマ設定をしていく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	すべての学生が標準以上に達したと考えられる。しかしながら、予復習の時間が少なかった。今後は、学生が予復習に取り組みやすいように、次週までの課題を学生と一緒に考え、取り組むべき課題が明確になるようにする。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業論文	4	通年	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年次の専門研究Ⅰにおいて卒業論文の作成を目指して準備を進めてきた。各自が卒業論文のテーマを決めて専門研究Ⅱに臨んだ。②各自で設定したテーマに関する論文、資料を探す中で、毎回の授業（ゼミ）の中では、輪番で1つの資料を紹介してもらい、これについて議論する中で理解を深めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①各自で設定したテーマに関する論文作成のために、資料を収集し、毎回の授業(ゼミ)の中で資料について議論を深めることが出来た。②収集した資料を基にして論文作成に真剣に取り組む、まとめあげることが出来た。③df諸々の事情から卒業論文作成を断念した学生では、その内容(到達点)は卒業論文には親ばないものの、専門研究Ⅱとしては到達目標は達成できたと考える。④これらは、到達自己評価、学習量の自己評価、情報利用や図書館利用の自己評価においてほとんどの学生が肯定的評価を行っていることと符合する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4.で述べたとおりである。 「3年次のゼミで調べてきたことを基に卒業論文を作成しようと考えた」「自分なりに資料を探した」と授業動機等には問題はみられない。 いずれの学生も国家試験への準備と並行して卒業論文にも真剣に取り組んでいたと感じた。到達度の自己評価も肯定的回答となっている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	特にはない。学生からは、「卒業論文は、今後とても役立つと思うので、この授業を選択して良かった」「このゼミで勉強して良かったと心から思っている」と肯定的評価を得た。 学生から以下のような意見がある。「卒業論文の提出日について：国家試験後終わってから提出までが早すぎて大変でした。国家試験にも、卒業論文にも集中して取り組めるようにもう少し余裕がほしかった。」可能な限り遅い時期へと提出期限日の変更を求めたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況は満足できるものであったと考える。 しかしながら、福祉学科全体として、以下のような現況を見ると、今後については少なからず危惧を抱いている。 従来、大多数の学生が卒業論文に取り組んでいた。ところが、数年前から公开发表が義務付けられて以来、取り組む学生が急速に減少し始め、ついに今年度の卒業論文完成者（発表者）はわずかに3名となってしまった。（中、筆者の指導学生は2名）このように、現在では卒業論文に取り組む学生たちが稀な存在となっており、卒業論文を必須科目としている大学もある中、本学福祉学科はいわば専門学校化してしまった感がある。学生は、ともすれば楽な方向に流されがちであるから、このような状況では学科全体のレベル低下につながりかねない。このことを忘れず教育目標をある程度の水準に保つことが必要ではないかと考える。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業論文	4	通年	選択	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	履修登録の時点では履修者全員が卒業論文を書きたいという意思をいくらか持っており、そのための基礎的能力は3年次に身に着けていたものと思われる。その上で先行研究を批判的に読み、自分なりの論を展開していく事に重点を置いて指導を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修者全員が放棄をするという残念な結果に終わってしまった。全員取り組みたい意思は持っていたものの、国家試験の勉強や就職活動など同時並行で複数課題を行うことに困難を抱え、卒業論文を書き上げることができなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉学もしくは心理学の研究を行うという意味では、本学科のCP,DPと合致しており内容的には妥当であると考えられる。しかし全ての履修者が放棄してしまったという事態を考えると、方法的には妥当とは言えなかった。3年次より卒業論文の要求水準を伝えていたつもりであったが、学生が実行可能性を評価できるまでに至っていなかったという指導上の問題点があったと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

履修登録時までに卒業論文の要求水準を学生にわかりやすい形で伝えていく努力が必要であると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今回履修者全員が放棄という事態を招いてしまった。これは教員の要求水準の伝え方に問題があったためと考えられる。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業論文	4	通年	選択	はい	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門研究Ⅰ・Ⅱの関連から学生の課題を把握し、個に即した課題を準備した。個別の指導に加え、授業外学習の必要性が増すため、他の課題と時期が重ならないよう配慮した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	受講学生が1名であり、「到達度自己評価」は4点および5点であったため、学生自身の学習目標は達成されたと考える。成績評価も9割以上の成績であり、良好な結果であったと考える。学習量や図書館、インターネットの利用も充分になされており、課題意識をもって臨んだと考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4年間の学びの集大成のような科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

研究課題を明確にもって臨んでいたため、指導の度に必要な課題提示を行った。
「授業の質の評価」や「学習量の評価」「図書館、インターネット利用」についても課題提示の際に誘発されるよう組んだため、それを反映した結果となっている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合的に授業目的は概ね達成できたと考える。他の授業との兼ね合いから、極端に課題が重なる時期があったことから、他の授業も含めた学生の利用可能時間の年間を通した均一化が必要であると考ええる。

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育者論	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいても9割以上の学生が学修効果を実感している様子が確認された。 成績評価上も良好であり、学生の実感と近い結果であったが、学習に際して、シラバスの活用や図書館利用等は1割程度であり、多様なソースを活用した学びには及ばなかったと考える。また、1名不合格者が出たため、来年度は成績不振者への対応について個別指導や確認テスト等考える必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育者としての在り方の根幹を成す科目であることから、関連DPについては妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

例年に比べ受講人数が少なかったことから、双方向的に授業を進める余裕があり、学生の質問や指導に充てる時間を十分にとれたと考える。また、授業評価アンケートから、復習時間を確保している学生も半数以上確認され、円滑に授業が進行したと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、検討が必要であると考え、受講人数が増えるほど直接的に学生に教授することが困難となるため、資料提示や学習ソースの紹介に工夫が必要であると考えられる。

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ(Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科ABの全体81名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「資格取得」が3.7%、「単位数確保」が7.4%「関心」「友人関係」が1.2%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「20、30、32」で96.47%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3、0」で3.52%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや 例えは、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、平均値は79.14点であった。分布的には、90点以上が9.30%、89～80点が37.21%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は43.48%であり、79～70点が46.51%、69～60点が6.98%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは53.49%であった。② 85名の学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「13、32、38」と「12、25、46」で 97.65%と97.65%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「2、0」と「2、0」でいずれも2.35%であった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「5、16、55」と「6、12、54」で89.41%と84.71%であったのに対し、否定的回答は「7、1」と「10、2」で9.41%と14.12%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する＜意欲＞では肯定的回答は「6、10、51」で78.82%であり、否定的回答は「13、5」で21.18%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「6、10、51」「6、12、47」で78.82%と76.47%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「13、5」と「15、4」で21.18%と22.35%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「8、15、52」で88.24%であったのに対して否定的回答は「8、2」で11.76%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「5、9、45」で69.41%であったのに対し、否定的回答は「18、8」で30.59%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では2%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ9.41%と14.12%、＜意欲＞も21.18%であり、＜技術＞ 習得では21.18%であった。その他を見ると、＜コミュニケーション、表現力＞の習得では22.35%、＜倫理・規範＞に関しては11.76%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価での否定的回答は、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞は2%台、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞は11.76%であった。昨年度と異なり、専門分野でも、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞は9.41%と14.12%と15%以下である。コントラストは、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞は21.18%、＜技術＞21.18%である。また、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答は 22.35%というような、専門分野と技術の分野のこの3分野が20%と大きいに留まることである。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上か80%台後半、専門の意欲、技術、コミュニケーションと表現という限定的な70%台後半に留まる。そこで、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	AB両クラスの全学生からの担当教員への授業についての意見は1件あり、「とてもおもしろい授業で楽しむことができました」という内容であった。前回は「順序立てて話してほしい。話の流れがつかみにくく、結論がよく分からないことが多かった」という否定的なものが1件あり、改善を図った。② 学習量の評価を見ると、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞に関しては、向上しつつある。③ 授業の進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「21、30、33」であった。＜理解しやすい＞という項目では、「10、22、42」で、ただ否定的回答は「10、1」であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「6、14、47」で、否定的回答は「13、5」であった。＜参加の機会＞の否定的回答は「13、5」で、肯定的回答は「6、14、47」に留まった。授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に、「何をしたらいいのかわからなかった」という学生が多かった。今後、これまで以上に予復習の課題を明確に示す工夫が必要である。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)記録しない学生への対応として板書の内容をプリントして配布すること、2)予復習の方法を具体的に指示すること、3)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、学生に分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫を継続する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上のために建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることの維持・改善は今後も必要である。評価基準の明確性につき3名が「少しそう思わない」と回答した。② キリスト教学は、総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養うことを目指している。この広い視野に立つアプローチの利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る点にある。学生の担当教員への授業内容に関する意見が肯定的であるのは、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、そこで習得した知識理解を応用乃至適用する学問こそ、専門分野の諸学問である。つまり、キリスト教学の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、＜6. 授業の進め方とその向上について＞の④に記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を一層明確にする。授業を進めるに当たっては、板書の内容をプリントして配布すること、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を工夫することが考えられる。

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
宗教と人間	4	後期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機としては「単位数を確保する」が50%であり、「関心がある内容である」が100%であった。動機は非常に高いと言えるが、キリスト教以外に関する知識や理解は概して持たないのが受講生の現実である。そこでまず、宗教が人間にもたらす豊かさを説明することで宗教を学ぶ意義を明らかにし、続いて、日本における代表的な宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教を時代順に説明した。これらの説明を終えた後で、最後に馴染みのないイスラム教を取り上げた。ユダヤ教に関してはキリスト教との比較において触れた。②「学生の質問を受け付け、これに答える機会」としては、授業毎に、受講生が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、さらに、受講者全員の学びに関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けてという流れでフィードバックが与えられるシステムを作り活用した。これにより、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③少人数の構成であったので、受講生が関心をもてるように対話を多くし、質問を引き出しそれに答える形で進捗することにした。④身近な学習となるように、中間的まとめとして宗教の映像を用い、それまで学んだことと信仰者たちの実際の生活とがどのように結びついているかを自ら考え確認することができるよう工夫した。⑤期末試験では出題に当たり、その準備の過程で、受講生が学んだ宗教に関して知識を自ら正確なものとし理解を深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						
成績を見ると、平均値は85.33点であり、再試対象者は0名であった。分布的には全員が80点以上で理想的レベル(概ね80点以上)に達した。これは、少人数で、毎回、知識習得と理解の程度を口頭で確認し、質問に答える時も全員が知識を確認し理解を深めることができるようになり、学生も関心を持って授業を受け、試験には十分な準備をして臨むことができたことの結果であると評価できよう。② 学生の達成自己評価を見ると、「かなりそうだと思う」という回答が66%であったのは、<知識習得><理解><意欲><コミュニケーションと表現力><規範習得>の事項であった。全員が「まあまあそうだと思う」以上の自己評価をしているものは、<知識習得><専門分野での課題を検討する力><判断する力><規範習得>であった。同じ肯定的回答でも「かなり」「わりに」「まあまあ」とそれぞれが33%であったのは、<職業選択の参考になった>という事項に関してであった。しかし「少しそうでないと思う」という否定的な回答が、すべて33%ではあるが、<知識習得><検証する力><意欲><技術習得><コミュニケーションと表現力>に関してであった。しかし、「全くそうでないと思う」という項目は無かった。③ 記録作成については、<配布資料に記録>と100%の学生が回答している。						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

「授業評価の指標」
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成に関する自己評価では、非専門・非技能表現の分野と専門・技能表現の分野を問わず、否定的回答は0であった。「若者の宗教離れ」という現代に、神道、仏教、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教という日常的にそれほど接触しない様々な宗教につき、上記のように5項目につき「少しそうでないと思う」という評価を33%が下しているが、21世紀の現代の人間と関連させて理解しようとする関心を15回の授業の全項目に対して「かなりそうだと思う」という評価を33%乃至66%が下しており、また、成績の得点が高いことから、全体としては内容的には妥当であったと考える。② DPの位置づけにつき検討すると、豊かな教養のもと社会を多面的に捉える視点と知識習得の項目である<知識><理解>、及び、社会の一員としての自覚・責任・自己研鑽の態度に関わる<規範習得>という非専門・非技能表現の分野でも、また、課題についての確に把握し支援方法を<検討する力><判断する力>、及び、人々のいのちや生活さらに福祉の課題に関心をもち解決への創造的支援を探求する<意欲>、並びに、対人援助職としての基本的専門的<技術>の習得という専門分野と、他者と生活する基本的なコミュニケーションスキルを習得する<コミュニケーション>、表現力<に>に関する事項のいずれにも、「まったくそうでないと思う」という否定的回答は0であり、むしろ肯定的回答が多いことから、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。③ 以上から 内容的には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生の担当教員への意見は1件だけであり「世界が変わった。いろいろなものの見方ができるようになった」という肯定的なものであった。② 授業の進め方に関して授業の質評価を見ると、否定的な回答は0であった。＜学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた＞という事項については、「かなり」という回答が66%、「まあまあ」という回答が33%であった。＜参加する機会＞という事項では、「かなり」「まあまあと思う」「少しそうでないと思う」に回答が分かれ、いずれも33%であった。＜理解しやすい＞という事項に関しては、66%の学生が「わりに」と回答し33%の学生が「まあまあ」と回答するに留まった。少人数であり、教員としては頻繁に平等に参加を促し、質問に対しては答えたと思っても、学生の側はそう感じるとは限らない良い例で、意識的に積極的に参加を促しても学生の側に伝わらなかったということであり、一層の工夫が必要である。同様に、＜評価基準＞と＜課題＞はいずれも「かなり」「まあまあ」「少しそうでない」が等しく33%であった。しかし33%の学生が「課題が出ていない」ことを挙げているので、問題の提起による自主的取組の域を超えて課題として提出することが必要である。③ 以上を踏まるとき改善策として、1)評価基準と課題を明示すること、2)＜質問と回答＞＜参加の機会＞は、理解を助けることから少人数の場合にはより積極的に促し活用すること、3)予復習の方法を明示することが考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、若者の宗教離れで宗教が身近でないことから、一層身近な事柄に翻訳する必要がある。また、評価基準と課題は、最初に明示するだけでなく、折々に喚起し明示する必要がある。② 総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。「学生の授業評価アンケート」に「全くそうでない」という否定的回答は0%であったが、学生の＜目標達成＞のためには、「わりにそうだと思う」という回答が100%であったが、さらに「かなりそうだと思う」という回答になるように改善する必要がある。それには、＜知識＞が習得されたことを確認しながら進め、受講者の理解をより正確にすることが必要である。特に新しい知識の習得に当たってはこの確認が一層重要である。その実現には＜参加の機会＞＜質問に答える機会＞が提供されていると学生が意識し活用できるようにする工夫が重要である。③ 以上から、内容は妥当であるが、方法論としては、明示と整理と確認の作業を繰り返すこと、身近なことに翻訳すること、参加の機会と質問に答える機会を活用できるようにすることが、今後の課題と思われる。

学科	福祉学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1	後期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を挙げる者が80%、「関心のある内容である」が20%、「先輩に勧められた」が12%等である。多くのものに初めから積極的な受講態度を期待できるわけではない状況の中で、新聞記事をはじめ、できる限り最新の情報を使って、ジェンダーが現在の女性の生き方に深くかかわる今日の問題であることをつかめるように心掛けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、秀が13%、優が27%、良が42%、可が12%、不可が6%であった。到達度自己評価では、大半の項目が中央値以上であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1とDP3に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価では、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目や専門分野に係わる多くの項目で大方中央値以上であったので、内容的妥当性は一応あったと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿ってレジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業の中で使用したキーワードについて、配布資料を読み込んで説明させるレポートを課したことは有益であった。予習・復習については、学生任せにしたきらいがあり、教員には、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

講義を通して、ジェンダー問題について基本的な知識を与え、専門分野の学習につなげていく課題は、最低限達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	4	後期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者5名は全員4年生で、そのうち4名の受講の動機は「単位確保のため」で、全員に共通する受講の動機は「関心のある内容である」であった。履修学生の音楽専門知識にばらつきが見られるため、一般的な音楽知識とこれまでに学んだキリスト教の知識を直接確認しながら授業を行った。②「音楽と文化」という講義名から、この授業で扱う作品については音楽的内容に偏ることなく、それに関連した絵画や建築などの芸術作品も紹介するよう努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	授業評価アンケートでは、「授業の内容を理解し、新しく知識を得ることができた」が4.0と比較的高かったが、予復習時間に反映されず、関心を持った事柄について図書館を利用し、さらに追及する意欲や姿勢は見られなかった。履修学生全員が、国家試験を控えており、授業の課題以外に予復習の時間を確保することは難しいと考えらるが、授業内で関連、参考図書を積極的に紹介し、自発的学習に結び付くよう促して行きたい。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性:本科目は、総合人間科目に位置付けられた、学科横断的科目である。キリスト教音楽の知識をもとに西洋の音楽文化を総合的な視点で学ぶことができるよう授業内容を工夫しているため、妥当であるとする。②DP:行動目標からみても内容的妥当性:昨年と同様、この講義に関心を持って履修した学生と、単位確保の目的で履修したことが主な履修動機であった。学生の専門科目との関連付けがなされるよう、なるべく断片的な知識による理解に偏らないよう心掛けたい。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

前期に受講した学生からの意見から、後期はパワーポイントの資料を配布し、学生のノートをとる時間を少なくし、説明に耳を傾ける時間を多くした。そのため、少人数であったこともあり、授業内容について学生と直接、質疑応答をしながら授業を進めることができた。学生からの意見はとくになかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目において、DP基礎的知識については、やや達成できた。来年度の前期は例年通り多数の学生の履修が予想される。今期のように学生からの感想や要望を直接聞くことができないため、授業内容について質問シートを配布し、学生の疑問や要望に応えるよう配慮したい。今後も授業内容の充実を図り、各学科の専門性と関連させることができるよう検討し、毎回の授業のねらいをより具体的に示していくよう、さらに改善したい。

学科	福祉学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の79. 2%を除いて、③「関心のある内容である」は20. 8%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。 2. 授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は84. 3点であった。そのうち、1年は80点以上は12名、70点以上は3名、2年は80点以上は0人、70点以上は5人、60点以上は2人、3年は80点以上は0人、70点以上は2人、4年は80点以上0人、70点以上は1人、ということから、標準レベルに達していた。 2. DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。 3. DP-3の【関心・意欲】においては、関連領域との協同により現実に即した解決を図る意欲が示されていた。 4. 学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習」を「週6回」は17人で、「授業の記録作成」で「主に配布資料に記録した」が10人であった。以上から、全体を通してやや目標を達成し、知識理解もやや達成されたといえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3. 6点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3. 9点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3. 8点であった。一方、「授業選択の参考になった」は2. 8点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4. 1点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がつけられていた」は2. 8点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。 2. 「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は19人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。 2. 「情報・図書館利用」「利用しなかった」が21人であったので、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べることができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点(課題)などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.7(±7.7)点であった。成績分布別にみると、90点以上が24%、89～80点が63%、79～70点が9%、69～60点が1%、60点未満が3%であった。97%の学生が標準的レベルに達しており、87%の学生は理想的レベルに達していた。一方、標準レベルに達していなかった学生は2名であり、2人とも再試レポートを提出しなかった。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が35%、「わりにそうだと思う」が35%、「まあまあそうだと思う」が30%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。 「技能・表現(DP5)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目7と8)についても、「かなりそうだと思う」が25～26%、「わりにそうだと思う」が26～28%、「まあまあそうだと思う」が28～38%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(3.6～3.8)。 「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、「かなりそうだと思う」が23%、「わりにそうだと思う」が25%、「まあまあそうだと思う」が41%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.6)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)の技術練習およびゲームを行った。「全体を通して」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「技能・表現(DP5)」および「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。 今回は該当するDPは、「技能・表現(DP5)」と「態度(DP4)」のみであった。しかしながら、ラケットスポーツの技能向上や自分に合ったペースを見つけるためには「思考・判断」や「意欲・関心」もまた関係していることから、これらのDPも含める必要がある。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～3.9であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外でランニングやジョギングをしていた者や家の中でトレーニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① シラバスについては、本科目の該当DP、授業概要、達成達成すべき行動目標と達成目安についてパワーポイントを用い説明した。なお、試験直前に戸惑わないよう評価法について丁寧に説明した。早期からの講義の振り返りを促すため授業の達成目安と評価法は授業回数半ばでも再度説明した。 ② 講義への興味関心と内容の理解をはかるため、講義後に関連するレポート課題をだし、参考図書の例示をあげ図書館を積極的に利用するなど事前指導を行った。 ③ 学習理解を深めるために課題については自学した内容を持ち寄りグループディスカッションさせた。 ④ レポート課題の評価項目および点数配分を明示した。学生の負担を軽減するため提出までには十分な時間をとった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は78.1点で100%の学生が標準的レベルに達し、理想レベル80点以上の学生は50%であった。再試験該当者はいなかった。課題レポート平均点は16点/20点であった。 ②学生の知識理解の達成度は80%で、関連図書を用い調べる(80%)、学術データベースを利用する(47%)、インターネットを利用する(63%)など知識を整理し、理解を深めるための主体的な学習姿勢がうかがえる。学生の知識理解の到達度自己評価の平均値は4.2で新しい知識など得ることができたと回答している。意欲関心の到達度は82%で、到達度自己評価平均値は3.6であった。 ③課題レポートの評価基準を明確に示すよう心がけたため学生の評価平均値は4.6と高かった。また、「期間内に行なう課題が明らかであった」、「話し合う場があった」の質評価についても、評価平均値が4.4、4.5と高く上記の改善策が効をなしたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。社会人としての一般教養、さらに人体に関する基礎知識を学び専門科目へとつなぐ位置づけの科目としては、この講義内容は妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 文系の福祉学科の学生にとり本科目内容は難しいと思われるが、昨年度の課題を改善することで100%の学生が標準レベル以上の成績をおさめている。また、上記に記載したように到達度自己評価も高くなっていることから内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①課題以外に学習に取り組んでいない理由として「学習する時間がない」との学生の自由意見がある。背景に様々な理由があると考えられるが、本科目が一般教養科目であるという位置づけから、できるだけ課題のなかで学習時間を確保するような方策(以下②)をとり目標を達成できるよう指導したい。 ②学生には講義進行にあわせ課題をだし、図書館を利用し積極的に自学するよう促す。学生の図書利用率、インターネット検索利用率、学術データベース利用率をあげるため図書館と連携するなどの工夫をはかりたい。 ③内容的に難しい科目とは思われるが「説明は理解しやすい(評価平均値4.6)」、「専門分野での知識を深めたいと意欲をもった(評価平均値3.6)」との学生の評価を得た。次年度もこれを維持できるような講義を行ないたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と人体に関する専門教育への基礎知識を培うという目標は達成できた。今年度の取り組みを次年度も継続して行なう。また、学生の意欲関心をアップさせるための題材を講義内容に加えるなど工夫をはかりたい。学習時間を課題を通して確保するなど方策をとりたい。

学科	福祉学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	(1) 世の中で盛んに用いられている、データベースとは何なのか？どのように作成するのか？どのように利用するのか？について、理解させる。そして、データベースソフト Microsoft Accessを用いてデータベースの作成、検索・抽出法を修得させる。 (2) Excelを用いたデータベースとの類似点・相違点を把握させる。 (3) テーブル、リレーションシップ、フォーム、クエリ、レポートの作成法を修得させ、数多くの例題演習をさせ、毎回、課題レポートを提出させる。 ＜昨年度からの改善点＞ 授業のスピードが早過ぎるとの指摘を受けたことから、課題数を減らし、その分、1課題の説明に時間をかけた。その結果、授業アンケートでの理解度が向上した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	(1) 知識理解は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」で、「少しそうでないと思う」以下が、26名中5名いた(20%)。 (2) 意欲関心は、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」で、「少しそうでないと思う」以下が、26名中8名いた(30%)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目のすべてで、「まあまあそうだと思う」以上が70%であった。そのことから、DP、CPは内容的に妥当であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

依然として、説明が少しはやかだったので、もう少しゆっくり言ってほしいの意見があることから、次年度はこの点を再度考慮する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

全体的に達成状況は昨年度以上になっており、成績も昨年度に比べて上がった。
補講がいつあるか不安になるので、早めに補講の日付を設定してほしいです。の意見が出たことから、来年度はこの点を注意する。

学科	福祉学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活と経済	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	手法を学習し、その応用として、経済現象を分析するという流れで講義を行った。手法を習得する際に、問題演習を行った。数理的な問題が多く、抵抗を少なくするため、できるだけ馴染みのある題材を選択した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績分布から、学生の達成度は高かったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	経済学の中で、ゲーム理論は中心的な分析道具になっている。ノーベル経済学賞を取得したNashの理論を中心に講義を行った。内容としては、適切だと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

もう少し、数学の程度を下げることを考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

初歩的なゲーム理論に関しては、講義できたと考えられる。それだけでなく、社会選択理論の内容を増やし、経済学の分析の広さを示すことで、より興味や関心を学生に持ってもらおうことを考えている。

2272400

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

受講動機を見ると、「資格取得に必要である」62.7%、「単位数を確保する」26.7%、「必修科目である」24.0%であった。教職必修科目であることから、福祉・心理・養護教諭コースの養護教諭志望者および子ども家庭福祉コースの幼稚園教諭志望者が履修者の大半を占めていると思われる。後期開始前に国会で成立した「安全保障法制」をめぐる憲法解釈の問題や、2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き下げられることを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
どちらともいえない	どちらともいえない			やや達成された	

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.9であり、レジュメ作成等の努力がある程度報われていると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.9と低い。これについては、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.0とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「教科書を読む」「レジュメの見直し」を行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「時間がなかった」「何をすればよいかわからなかった」という意見が散見された。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見については、「どの講義も大変濃い内容でおもしろかった」「とても分かりやすく、理解しやすい授業」だったという一方で、「内容は、先生の意見ばかりで、しかも押しつけがましいのでやめてほしいです」という意見も見られた。しかし、大学の講義では教員の主張がある程度出るのはむしろ当然である。「はっきり言って批判ばかりで気持ちのよいものではありません」と感じるのであれば、どうして担当教員がそのような批判をしているのか、様々な文献や資料を読んで学習したうえで、積極的に学生のほうから教員に疑問や反論をぶつけてほしいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方を検討したいと考えている。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ(Aクラス)	1	後期	必修	はい	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語を専門としない学科の外国語の授業であり、通常は動機づけが高くないはずであろうが、このクラスは高かった。アンケートは41名回答。必ず全員が参加できる部分とそれが困難な部分があるが、前者の割合を増やすようにした。Active Learning と言え言えるのであろう。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	A(秀)39.1%、B(優)13.0%、C(良)23.9%、D(可)10.9%、E不可13.0%であり、6名は追再試を受験した。欠席率が極めて低く、提出物の提出率は大変高かった。アンケートで、学習量の評価の項目から分かるのは予習型の取り組みをしていること。30分程度以上の予習をした項目に対して、6回以上が34名である。授業の質評価では、(1)～(5)の全項目が、平均値4.3以上である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語の科目ではあるが、内容的には専攻の福祉にもかかわるようなテキスト選定がなされており、それを使った授業も、DPの知識理解に対応するものである。したがってこの科目配置はカリキュラム上、妥当なものと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	非常にうまくいった授業だと思う。それは一つには、前期に同じクラスの英語を担当した教員から、クラスについての助言をもらっていたことである。このクラスは、前期最初に二週間だけ1人の教員が授業をして、都合で別の教員がその後を引き継いだという経緯のあるクラスである。その二人目の教員から助言を7回ぐらい得ていた。これは大変価値のある情報となり、授業運営に役立った。このような取り組みが可能であるならば、汎用性があるのではないだろうか。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ここまでうまく運んだ授業も珍しい。非常に意欲的な取り組みを見せたクラスである。昼食後の最初の英語であり、最も睡魔におそわれやすい授業でもある。ところが、眠りそうな学生がいると、隣の学生が注意してくれるような雰囲気であり、授業後にも質問にくる学生がいた。授業ノートのとり方についても質問をしてくる学生がおり、授業妨害型の学生も皆無であった。ところが、このクラスがなぜそうなのかは、分からない。たまたまそのような学生が集まっていたのかどうかは分からない。少なくとも、週に一回だけしか授業をしない他学科の教員からは分析はできない。仮にできれば、クラスの編成方法等に汎用できるものが見えてくるのかもしれない。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ(Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	指導、説明内容を毎回全て動画に収録した。学生のレベルを考えて説明ポイントを絞り込んだ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講学生数44名、100点が2名、90点以上14名、80点以上12名。6名再試験、全員単位認定。学生に取って全く新しい授業方式で進めたが満足度は高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当
--	----

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

動画による授業進行は概ね好評であった。但し、教員サイドから見て学生の理解度を直接知ることが難しかったので、内容に関する質問をすることでその部分を補ったが、CALL教室では学生とのやりとりが少し行いづらく、例えばアクティブラーニングブレイスで、全員がタブレット端末で授業を受けられると、その問題が解決できるかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

自分が書いていないシラバスに則って、順調に授業を進めることができた。アンケートには授業の進め方に関して感謝の言葉もあった。

学科	福祉学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅳ(Aクラス)	2	後期	必修	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」がほとんどで(98%)、初回のアンケートでも「英語は苦手」という声が多かった。また採用されていたテキストが学生の英語力のレベルと大きくかけ離れていると判断したため、ペア、グループで取り組む活動を多く入れて、授業の難易度をなるべく下げ、学生が主体的に授業にかかわっているように心がけた。 また身の回りの物事を英語で何というか調べる自主学習を毎回提出させ、英語を日常生活に溶け込ませるための方策をとった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると、(1)「自分なりの目標を達成した」、(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均はそれぞれ3.3と3.4であった。(1)に関しては、毎回の出席用紙に当日の目標を自分で立てさせ、授業終了時にその目標の到達度を自己評価するという活動を行っていた。このため、授業全体を通して「自分なりの目標到達」という意識はある程度高まったのだと考えている。しかし平均値がそれほど高いわけではないので、上記の評価を下したしだいである。 (2)についても3.3という平均値であったため上記のような評価をした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、該当するDPは「知識・理解」であった。到達度の自己評価でも「知識を確認、修正したり、あらたに得ることができた」という項目で中央値が3、平均が3.4であったことから、内容的妥当性に問題はなかったと判断しているが、満足できる数値ではない。 期末試験の平均も48点ほどであった点からも、上記の評価が妥当であると考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスには小テスト2回の実施とあったので、そのように実施したのであるが、学生の知識の定着を図ることと、学生自身が「知識が増えている」という実感を持つためには、もっと頻繁に小テストを設定するべきであった。 人数も語学の授業としては多く、1週で1ユニットのスケジュールにしては英文内容も多く、難易度も高いものであった。シラバスのスケジュールをこなすことに注意が向いてしまったため、一人ひとりの理解度を確かめながら進めるという配慮が行き届かなかった。これは授業者の力量不足として次回の反省材料としたい。たとえば、扱う英文は全体ではなく、ポイントだけに絞って、後は軽く流す程度などの濃淡のある授業展開をする必要があるだろう。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	英語の「知識・理解」という点では課題を残した結果となった。限られた時間の中で、学習者のレベルよりも上の課題に取り組むときに、どのようにしたら達成感を得させることができるのか。毎回のゴール設定をどのようにするべきかが課題だろう。あれもこれもと欲張ることなく、最低限コレができればよい、余裕がある人はここので、などの段階別の目標を設定した授業運営も検討したい。
------------------------------	---

学科	福祉学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅳ(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、ほとんどの学生が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「小テストの復習」、「英単語を覚える」、「英語を日本語に訳すことをした」、「予習、復習」、「教科書を読んだ」とありました。相当難易度の高いテキストを使用致しましたので、実際は、大変時間が掛かる予習だったと推測致します。語学の学習は、繰り返しと忍耐力も必須ですので、そのように致しました。④英語のReadingの授業ですので、授業に入る前に、自宅学習と致しまして次回の範囲を4回以上音読することを義務付けました。しかし、これは、あまり、実行されていなかったと推測致します。『受講動機』は、必修科目ですので、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断致します。しかし、専門科目である福祉関係の科目の準備が忙しすぎて英語まで手が回らないと言う自由記述が多々ありました。「授業で精一杯だった」、「予習、復習のスピードが速すぎて他の事に手をつける時間がない」等がありました。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、最終的な成績の平均値は100点満点中の79点であり、再試対象者は0名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、54人名中30名でした。小テストは2回実施致しました。全体の平均点は1回目が、12点満点中10点でした。2回目は、12点満点中9点でした。最高の平均点が満点の12点で、最低が1点で、個人差が著しくありました。小テストの様式は穴埋め問題ですので、難易度は、標準的なものを作成いたしました。テキストの『日本文化を世界に』をもう少し時間をかけて重層的に幅広く説明できれば、もっと、理解が深まるのではないかと判断致します。『学生の到達度自己評価』につきてきて肯定的な解答は、(1)自分なりの目標を達成した88%。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た(92%)。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(89%)。と非常に割合が高い結果になっております。しかし、(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(約69%)。(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た(60%)。(10)職業選択の参考になった、という点では、解答が52%という低い結果となっておりますが、半数以上ということで達成されたと判断致しました。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価に関しまして、①CP、本科目は福祉学科の必修科目であります。昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に入りましたため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必須科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」等に関するものが、8割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しまして学生が達せきすべき行動目標は、「英語の専門書を読む基礎力をつける」と挙げられています。この項目につきましては、『日本文化を世界に』を中心にした教科書により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、「英語の専門書を読む基礎力をつける」という点においては、語彙力、文法力、リスニング力を強化できたと考えます。③まとめ、以上から、内容妥当性には全く問題はないと判断致します。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあそう思う」と「わりにそう思う」と「かなりそう思う」を合わせると、89%であった。「期間内に行うべき課題は明らかであった」では、91%であった。「説明は理解しやすいものであった」では、74%であった。授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、93%であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつけられていた」では、93%であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的でございますが、5項目の内、「説明は理解しやすいものであった」では、「そうは思わない」と言う意見が26%ございますので、全員が満足するような解答になりますように、「アンケート用紙」を活用し、次回は工夫を凝らす所存でございます。学期はじめに、英字新聞、英語ニュース、映画、DVD、英語の雑誌、ネイティブの先生と英会話を楽しむ等を利用して、一日30分以上は英語に触れるようにと、オリエンテーションで詳細に説明したにも関わらず、「課題以外することが分からない」という学生からの意見がありましたので、今後は、もっとじっくりと何回も繰り返し、授業以外の英語力の高め方を説明していきたいと考えております。他に「授業のスピードが速い」、「和訳をゆっくりお願いします」という要望がありますので、その点を気を付けて、授業に臨む所存です。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業を振り返ってみると、教科書『日本文化を世界に』を中心にプリントを毎回準備し、非常に丁寧に、じっくり進めたつもりであったが、本科目に対する学生の意見に「もう少し読む時間が欲しい」、「少し授業が早かった」、「もう少し和訳を繰り返してほしい」等、授業のスピードに関する意見が、多く挙げられておりました。この点を次年度より、十分に心得、学生の様子を観察しながら、対話をしながら効率の良い、授業を進めていくように努力致します。また、また、学生が具体的に取り組んだ学習と致しまして、「単語を覚えた」、「小テストの学習をした」、「英語を日本語に訳すことをした」、「教科書を読んだ」、「予習、復習をした」が挙げられております。今後は「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接コミュニケーション」をしっかりと測りながら、学生の英語力の向上を目指して、具体的で、適切なレベルと教材量を検討し、なお一層工夫を凝らした取り組みと改善を実施していきたいと存じます。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	In the second semester of this Oral English course we used the textbook “Four Corners: Book 1”, and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking. In the second semester we focused more on the speaking exercises.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Again this semester students were able to achieve a fairly high level of progress. Sttudents continued to improve in writing simples sentences and by the end of the semester the sentences were noticeably better. Most students could use and respond to classroom English confidently by the end of the final semester.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Again I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

More pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.

学科	福祉学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語Ⅱの概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことを教授する。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の80%を除いて、③「関心のある内容である」は60%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてももう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「92.0点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として85点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週3回の準備を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.0点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点5.0点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1.「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2.「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次 年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3.「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識 やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 中国語Ⅱは選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習 得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲルⅡ	1	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハンゲル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が最も多いのも頷ける。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均成績は74.75点であり、再試験に応じた学生の中から落第は一人もいなかった。 また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。また「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.6、中央値が5であることからしても所定の成果を得られたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容の妥当性 多くの学生がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 教材を用いた予習・復習には時間を割く他に動画による聞き取り、K-popを用いた発音練習など自分が興味があるもので学習に取り組んだことが学習量の評価自由記述(4)「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」で分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。教材を用いる学習以外のも各自好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。これからも学生たちが積極的に学習できる素材を紹介しようと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも韓国語と韓国の文化への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職養護教諭一種免許状取得の4年生では必修科目であるため、養護実習の仕上げとしていることから、授業では全員で学び合うことを重視した。また、現場の養護教諭、教育委員会及び本大学の福祉心理の専門家からの講師派遣を要請した。講師選定には養護実習での学びの補強を行えるように図った。配布資料や授業の進め方を工夫すると共に、さらに養護実習中で欠席する学生には学びにつながる具体的な課題及び学習方法を指導し、またフォローも行ったことで、学生の不安等が解消されたと考える。②アクティブな授業方法を取り入れ、学生の学びが深まるような工夫を行った。その結果、学生は事例分析、役割演技等に積極的な態度で取り組むことができていた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.8(±3.3)点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達した。(概ね80点以上として試験を作成) 学習到達度評価では、全員が目標を達成しており、目標別にみても知識理解、思考判断、意欲関心、技能表現など94%以上で極めて高い数値であったとなっており、履修生の多くが積極的に取り組めていたKとが、成績や行動目標の達成につながったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教職養護教諭一種免許状取得の4年生では必修科目であり、学校現場の実習を体験した後で履修する仕上げの専門科目である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 履修者の動機づけが高く、授業への取り組みも積極的に極めて高い成績を修めるていることから、内容的には妥当であったと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	履修者の意見として、「授業でいっぱい」「レポート、PW作成等で図書館やインターネットで学びなおした」「自分がどのような養護教諭になりたいか改めて考えるよい機会になりました」などあり、授業の質については高い評価結果であった。 養護実習の仕上げとしていることから、具体的な課題及び学習方法を指導する際アクティブな授業方法を取り入れ、授業では全員で学び合うことを重視したことで履修者の学びが深まったと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教職実践演習（養護教諭）は養護教諭専門の応用科目で必修科目としての位置づけから、基礎理論を理解したうえで、実戦に力に向けての技術等を修得するものであり、成績評価等から概ね達成できたと考える。外部講師の選定では養護実習での学びの補強を行えるように図ったことから他覚的な視点が養われたと考える。次年度もこのような方法が採れるように企画したい。
------------------------------	--

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。特に福祉学科は履修人数制限があるため、学修への動機付けが高まっていると考えられる。 本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全学科平均(66.1)に対し、福祉学科平均(66.3)であり、かなり優秀な成果が見られた。 出席状況も6割が一度も休んでおらず、最も多い学生で3回欠席が1名であった。 合格者平均と不合格者平均の差が24点であるが、不合格者2名(6%)と非常に少ない。授業中の説明をきちんと聞かなければ解けない問題にもある程度の成績を上げており、受講態度も満足できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、福祉学科を基盤とする養護教諭養成という学科方針に位置づけられている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生にとって自己の体験と比較しやすい分野(児童期の仲間集団経験など)と比較し、そうではない分野(社会的発達概念と社会化論の関連など)は理解度が低かった。本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考え。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

福祉学科に関しては学習内容をよく理解しており、その点では満足できる。次年度は内容の理解を深めるとともに、将来の教職との結びつきをイメージしながら学べるような教材の工夫を行いたい。

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①養護教諭一種免許取得では必修であり、養護教諭コース選抜後であるため、ほぼ進路が確定していると思われる受講生であるので、学校現場での養護教諭の実習に生かせるように授業を進めた。全員に学校保健教育の授業指導案作成及び模擬授業実施または児童生徒として体験参加できるように配慮した。 ②学生の学びを高めるために模擬授業後ににカンファレンスを設定し、授業者役の自評と観察者役の意見交換を行い、学生がより良い授業に向けて学習できるように図った。 ③昨年度まで続けている授業観察記録シートを使って記録の仕方や授業の振り返りを今回も行った。 ④昨年度の反省から、授業の始めりにねらいと学習活動を明確に説明するように心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.3(±5.0)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは75.0%と高い結果であった。 学習到達度評価では、目標別にみると知識理解について79%、思考判断96%、意欲関心88%、技能表現92%となっており、履修生の多くが指導案作成や模擬授業の体験学習を積極的にすることができ、成績や行動目標の達成につながったと考える。また、昨年までも使用していた学習カード及び模擬授業観察カードについては、授業に対する興味関心が高まるとともに、思考判断及び日々表現力などが培われていくものとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、養護教諭コースの専門科目であり、必修である。養護実習につなげる位置づけから、校種別の学校現場の状況を提示することで動機づけを高め、また校種別の指導案作成、模擬授業の演習に進めて行くプロセスであることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 履修者が意欲的に取り組み行動目標の達成及び成績評価でも全体的に達成度が高かったことから妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の反省から、授業の始まりにねらいと学習活動を明確に説明するように心がけた。 履修者の自由記述によると、「養護教諭の資質や能力について学びを深めることができた」「とても身になるものでした」「関連するところはくまなく調べた」などあり、授業への興味関心、意欲、態度などが高まったと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学校保健教育法は、養護教諭専門の必修科目としての位置づけから基礎的理論と方法を理解したうえで、実戦に向けての思考判断、技術表現等を修得するものであるが、成績評価等から概ね達成できたと考える。昨年は予習に取り組めない学生がみられたので、本年度は事前に学習課題及びねらいを具体的に示すようにした。 授業過程を振り返ってみたとき、アクティブな授業（演習）を行ったことがよい結果であったので、次年度もさらに良い展開できるようにしていきたい。
------------------------------	--

2296100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	福祉学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	後期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

授業の実施にあたり、大切にしていること:教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.5～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「新聞を読むようになった」「詳細な内容を調べるようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もあり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。					

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、平均点3.5程度と低かったので、特にテストについては明確に学生へ提示しようと思う。模擬テストなども作成する予定である。また、自由記述の中に担当教員への意見として、「実際にあった事柄を聞けて教育の難しさを感じることができた」とあるが、確かに教育は難しいものであるが、それ以上に楽しさもあると思うので、その教育の楽しさについても学生に学んでもらいたいと思った。次回は、そのような事例も盛り込んだ講義内容にしようと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力(事例解決の思考判断)、また③実技(カウンセリング能力)を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。
------------------------------	---